1. 議 事 日 程 (5 日 目)

(令和7年那智勝浦町議会第1回定例会)

令和7年3月18日

9時33分 開 議

於 議 場

日程第1 一般質問

10番 津 本 ・ 光…………… 220

1. 懸泉堂について
2. 安心・安全の住みやすい町づくりについて
 - ①子育て・町民支援
 - ②防災への備えから
 - ③長期総合計画と地域おこし協力隊・集落支援員・色川出張所について
 - ④観光行政について

3番 城 本 和 男…………… 243

1. 旧グリーンピア南紀への大学設立申出について
(田辺市で検討がされるようであるが、町として設立申出に賛成だったのか)
2. 集落支援員と地域おこし協力隊の活用について
(町の活性化のために広く人材を活用すべき)
3. 道の駅「なち」のコンサル委託について
(専門家に委託して今後の活用を考えるということであったが)

5番 藤 社 和 美…………… 263

- ①創業支援(初期投資補助金)の創設
- ②犬及び猫避妊・去勢手術補助金制度の創設
- ③こども食堂の運営是那智勝浦町でなぜ進まないのか?

9番 松 本 和 彦…………… 275

- ①子育て支援に関する事。
- ②広域医療圏に関する事。
- ③物価高騰・米不足等、住民生活支援に関する事。
- ④小規模事業者経営改善資金利子補給(利子補給制度)に関する事。
- ⑤町の公募(文化・教育・事業等)のありかた。
- ⑥世界遺産20周年記念シンポジウムについて。

2. 出席議員は次のとおりである。(11名)

1番 引 地 稔 治

2番 吾 妻 正 崇

3番	城本和男	4番	曾根和仁
5番	藤社和美	6番	西太吉
7番	加藤康高	8番	東信介
9番	松本和彦	10番	津本・光
11番	勝山則子		

3. 地方自治法第121条第1項により説明のため出席した者の職氏名（16名）

町長	堀順一郎	副町長	瀧本雄之
教育長	岡田秀洋	総務課長	田中逸雄
税務課長	増田晋	住民課長	太田貴郎
福祉課長	仲紀彦	こども未来課長	竹原大二
観光企画課長	畑下貴幸	農林水産課長	村井弘和
建設課長	井道則也	会計管理者職務代理者	塩崎圭祐
参事（消防長）	湯川辰也	教育次長	中村崇
水道課長	楠本定	病院事務長	寺本斉弘

4. 職務のため議場に参加した事務局職員の職氏名（3名）

事務局長	寺本尚史
事務局主任	上仲映豪
事務局主査	北郡克至

~~~~~ ○ ~~~~~

〔4番曾根和仁議長席に着く〕

○議長（曾根和仁君） おはようございます。

報道各社から議場での撮影許可の申出がありました。本件について、議長はこれを許可しましたので報告します。

なお、報道関係の皆様をお願いいたします。撮影は傍聴席から行い、議事の妨げにならないよう、傍聴の妨げにならないよう御配慮をお願いいたします。

また、傍聴者の皆様をお願いします。傍聴に際しては、お手元の傍聴券に記載しております傍聴人規則を遵守し、携帯電話の電源はお切りいただき、議事の円滑な進行に御協力いただきますようお願いいたします。

開会に先立ちまして、町長より報告がありますので、議長はこれを許可します。

町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） 皆さんおはようございます。

貴重な時間をいただきまして、2点、御報告を申し上げます。

去る3月13日、アメリカのトップ媒体であるタイム誌が発表する世界で最も素晴らしい場所2025年の訪れるべき場所部門、全世界で49か所が選定をされました。その一つに熊野那智大社と那智山青岸渡寺が選定をされました。タイム誌は、1923年創刊の伝統あるアメリカのメディアでございまして、愛読者が世界中で1億人を超えてございます。世界最大の発行部数を誇る権威ある週刊誌の一つであります。これは2023年に那智勝浦町観光機構が取組を行い、全国で11か所選定をされた地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業のプロモーションによって、このものが取り上げられた成果でございます。これからもさらに多くの海外の外国人観光客にお越しいただけるものと期待してございまして、お越しいただいた皆様方に御満足いただいてリピーターとなっただけできるよう、受入れ体制の充実に努めてまいりたいと考えてございます。

もう一点が、那智勝浦町産の生まぐろの話題でございます。

皆さん既に御存じだと思いますけど、今日から大リーグの開幕シリーズがドジャースとカブスが開催されますけれども、それに先立ちましてドジャースの大谷選手が主催で食事会が開催をされて、大谷選手のインスタグラムの中で巨大なマグロが紹介をされました。その4こま目に黄色い札で和歌山県那智勝浦町（延縄）という黄色い札がありまして、これは大変話題になって、テレビあるいは新聞、ネットで紹介をされました。大変なPR効果だと思いますし、これによって那智勝浦町の生まぐろが、先日もネット配信をしているところから役場のほうに取材もありましたし、そういったことで大変な波及効果ではないかなと思います。そういったことでは、生まぐろを食べていただいた方は特に活躍をいただいて、マグロがよかったなっておっしゃっていただけるようなことにつなげていただければというふうに思います。

以上2点、明るい話題というか、そういったことでございますので御報告申し上げます。

以上です。

~~~~~ ○ ~~~~~

9時33分 開議

○議長（曾根和仁君） ただいまから再開します。

本日の会議を開きます。

本日の日程は、お手元に配付のとおりです。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第1 一般質問

○議長（曾根和仁君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問一覧表のとおり、通告順に従って、10番津本議員の一般質問を許可します。

10番津本君。

○10番（津本・光君） おはようございます。

発言通告に基づきまして一般質問に入りたいと思います。

その前にちょっと、私は年齢とともにやっぱり滑舌が非常に悪くなってきてまして、しゃべっているときに時々聞きにくくなることもあるかも知れませんが、そこは前後の発言で理解をしていただければというふうに考えております。よろしくお願いします。

まず最初に、懸泉堂の問題について質問をさせていただきたいと思います。

文化財登録としての答申の経過についてですが、一番最初に答申を受けたのはいつでしょうか。そして、それがどういった経緯から答申を受けたということになるのでしょうか。そのとこをまず最初にお聞きしたいと思います。

○議長（曾根和仁君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） お答えさせていただきます。

まず、町史に、懸泉堂は江戸末期から明治にかけて、医業の傍ら塾を開いて子弟を教え、代々継続して地方文化に貢献した名家とされています。また、文豪佐藤春夫の父豊太郎の生家でもあり、大正期には豊太郎が赤塗りの2階建ての洋館を増築し、医業を行った建物であります。

この現存する建物につきましては、平成19年3月に発刊されました和歌山県教育委員会が調査を実施いたしました和歌山県の近代化遺産、和歌山県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書におきまして取り上げられ、その中で紀南文化を物語る重要な建造物であり、今後、地域文化の拠点として整備されることが望まれると、このような報告がされております。そうした評価を受けまして、町文化財審議会におきまして、平成19年度から懸泉堂について御審議いただき、平成21年度には登録文化財として保存整備、活用方法等についての御提言をいただいております。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 登録文化財としたのが、普通に文化財として登録したとえば、そのままに受け取っていたんですが、どうも聞きますと、指定文化財という言い方もあるみたいで、その指定文化財との違いもちょっと教えていただきたいのですが。

そして、その上で登録文化財としての最終的に再確認されたのは今年の3月ぐらいというふうに聞いたんですが、それで間違いないでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） 登録文化財の制度につきましては、従来の国または自治体の指定による指定文化財に加えまして、平成8年の文化財保護法の一部改定により生まれた文化財を登録する制度でございます。指定文化財より緩い規制で文化財の活用を図ろうとして始まった制度で、外観を変更しなければ、内装などの改変が許されております。

懸泉堂につきましても活用の選択肢を広げ、整備しやすいようにとのことで、登録文化財を目指す方針が昨年3月の文化財審議会にて再確認されたところでございます。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 懸泉堂は、私もいろいろ教えていただきまして、貧富の差なく、結局来る者拒まずという形で寺子屋として、江戸時代辺りですか、運営されていたというふうに聞いておりますが、その当時、亡くなられた森教育長がここで、これは懸泉堂という佐藤春夫のルーツ、下里懸泉堂のところで、この編集の責任者が多分寺本事務局長だと思っておりますが、ここでこういうふうに書かれております。

1次調査を行いました。このときに、森教育長、当時ですね、懸泉堂をどうするかというのが本町教育委員会の長年の懸案事項でした。ここは江戸時代から教育水準の高かった下里で寺子屋としてあったと。下里文化の中心であり、また佐藤家をめぐる様々な文化人との交流、ドラマが詰まっている館、そこには春夫や谷崎潤一郎、三好達治など、日本を代表する文豪が絡んできているということで、どういう資料が出るか非常に楽しみだということが、ここで紹介をされております。これ下里のほうで作られているやつで下里展で出されてたやつですが、ここでも非常にそういった下里が文化の町としての、教育の町としてのいろんなことが紹介されておりますが、答申されたにもかかわらず、結果として今日まで結局その答申が活かされてこなかったというのがちょっと残念なんです。その経過、経緯というんですか、譲渡に至った今回の経過について説明をしていただければと思っております。

○議長（曾根和仁君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） 今日までの経過というところです。

まず、平成22年に懸泉堂所有者でありました春夫氏の長男様、こちらと譲渡の交渉を始めましたが、長男様が事故により急逝されました。それによる相続人の変更、その他、また翌年発生しました紀伊半島大水害等の影響によりまして、交渉が一時途切れたと、このように聞いております。その後、平成27年に当時の森教育長が再度、懸泉堂の現地確認を行いまして、その中で懸泉堂内部に文書等が残されていることから、懸泉堂の所有者のほうにアプローチを行っております。

その際に、内部の文書等についての調査の許可をいただきまして、平成29年、30年には、和歌山大学による懸泉堂文書調査を行いまして、翌令和元年度に結果をまとめた冊子、文豪佐藤

春夫のルーツ、下里懸泉堂文書への誘い、こちらのほうを作成しております。

その後、調査に協力をいただきましたお礼にということで、冊子の贈呈を兼ねまして所有者様のほうへ訪問を行っております。それをきっかけに教育委員会職員のほうで訪問等を重ね、交渉を再開しました。当初は懸泉堂を売却されるという意向でございましたが、令和5年、町に寄贈の意向を示されたことから、令和6年2月の施設の寄贈に至りました。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 私は、町のほうで文化財として必要だと思ったときに早く買い取ることでもできていれば、もっと費用のかからない方法で取り組めていたのではないかと思います。しかし、今となっては譲り受けたという段階での判断となるわけですから、壊れかけた家に何で多額のお金を投じるのかという声が見えてくるのも私は仕方がないと思います。当然のことだと思います。

そこで、改めて文化財としての重要性としてどう考えてるのかということで、昨年3月に、2009年の答申がされたこと、先ほども説明されましたが、今後の活用についてどう考えておられるか、その点についてちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（曾根和仁君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） 懸泉堂につきましては、佐藤春夫の父の生家ということで、佐藤春夫にもゆかりのある場所でございます。内部には、江戸末期から200年以上の古文書があり、調査を行っております。建造物につきましても、江戸末期と大正期の建造物で、先に述べました和歌山県教育委員会発刊の和歌山県近代化遺産総合調査報告書や、近年では平成29年12月に串本町で開催されました和歌山県世界遺産センター主催講座におきましても、近代建造物を残すという視点で懸泉堂の名前も挙げられております。

町文化財審議会答申を受けての対応ということですが、昔、寺子屋として使用されていた経緯からも、地域のサロン、学習の場としての利用がふさわしいのではないかと御提言をいただいております。また、寄贈いただきました御遺族の意向も、訪れる人がくつろげるような場所にとの御意向をいただいておりますので、教育委員会といたしましては、それらを基本とした活用方法の検討をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 私は、下里にはやっぱり古墳とか日本一短いぶつぶつ川、こういったものもあって、そういう意味で本町は歴史的な文化を大事にしてきたという歴史も、熊野古道の件もそうですが、そういう歴史があります。そういう意味で、町として指定が、あと妥当とされている場所が、私が聞くところによりますと2か所あったということで聞きましたが、そういったその取組がこれからどうなっているのかと、その2か所の分ですね、新たに追加できるんかどうかということで検討されているのかどうか、そこらのとこをちょっとお聞かせください。

○議長（曾根和仁君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） 現在、文化財審議会です新たに町指定文化財にふさわしいとして御提言いただいているものにつきましては、1つは二河地区に伝わる二河の火祭り、それともう一つは南大居地区にあります御社森城跡となっております。現在、文化財審議会のほうからは、このように御提言いただいておりますので、準備が整い次第、教育委員会に諮りたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） コロナ禍の中でなかなかちょっと動きが取れにくかったということも聞いておりましたが、できるだけ一刻も早い対応をしていただければというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

続きまして、住みやすいまちづくりについてということで、幾つかの質問をしていきたいと思ひます。

まず、今の厳しい物価高騰の中で、残念ながら昨年は相次いで公共料金の値上げがされました。私は、これは予算の総括質疑のときにも言ったんですが、3月中旬頃の熊野新聞で新宮市の予算発表を見て、新宮市がプレミアム商品券の発行、配布するということを知りました。本町でもそれが予算で出てくるのではないかとということで期待をしたのですが、残念ながら当初の予算には組まれておらず、私はちょっとショックを受けました。私は、公共料金の値上げの問題のときにも十分な基金の活用をすべきだということで、わざわざ値上げをしなくてもいいんじゃないかということをおの場でも発言したわけですが、まずその基金の活用も含めて、今回新たに基金が活用されずに、また今回も新たに国保料の値上げがされました。そういう意味で、町民の生活を守っていくためのなぜ施策を当初予算の中で打ち出さなかったのかということで、改めて再度質問したいと思ひますが、よろしくお願ひします。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 現在、物価高騰による町民の生活支援対策といたしまして、広く担当課において事業提案いただいた上で、より有効な事業を実施できるよう検討を行っているところでございます。近く事業内容を決定しまして、6月議会において予算措置をお願ひできるよう進めてまいります。

また、当初予算におきましては、水道事業会計への繰出金4,269万4,000円を予算措置しております。これにつきましては、議案審議でも御説明させていただきましたが、水道事業会計において将来的に資金が不足しないよう、さらなる料金改定とならないようするための予算でございますので、どうぞ御理解いただきますようお願いいたします。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 今の物価高騰の中で、今月も3,000品目ぐらひの値上げがされるというようなことが、これはテレビでも報道されておりましたが、私は町民生活をやっぱり防衛していくための、そういう意味でも一刻も早い手を打つべきではなかったかと思ひます。そういう

具体的な対策が少しでも遅れてしまっただけでは、ほんまに町民生活は毎日毎日が逼迫して、大変な状況にいる方のほうが圧倒的に多いと思います。そういう意味では、その点、対策の遅れがやっぱり気になります。そういう意味でその点はどうお考えかということをお願いします。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 先ほども御説明させていただきましたが、現在、事業内容の検討を行っております。今後、早急に進めてまいりたいと考えてございます。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 本当にこういう町民の生活を守っていくための手だてはやっぱり早く、一刻も早く講じていただくべきだというふうに思います。再度お願いしたいと思います。早く商品券を配布するなりして、町民の生活が少しでも活気づくように手を打っていただきたいなというふうに思います。

次に、子育て支援の問題として、私も前のときから説明して取り上げておりますが、国保均等割の子供分、これを半額にできないかということで、この間、質問もさせていただきました。この実施をすれば、どのくらい費用がかかるのかという私の質問に、課長のほうは、多分1,000万円以内で収まるのではということと答弁されましたが、もし具体的に金額のほうが大體このぐらいだというのが分かるようでしたら教えてほしいのと、できたら半額にした場合のやつもどのくらい要るかというのについては、どのくらいで収まるかということについても分かれば教えてほしいんですが、それはちょっとここの場で分からなかったら、また後でもいいので教えていただければと思います。

国保に基金も積み上げている、多分令和5年度で国保の基金が8,900万円ほどあったと思うんですが、令和6年度の決算はまだ出ておりませんので、今後の見通しも含めて増えそうなのか、減りそうなのかというようなことで教えていただければと思います。

○議長（曾根和仁君） 住民課長太田君。

○住民課長（太田貴郎君） 子供の均等割の質問です。

1,000万円以内で収まるという答弁、以前したというところで、その答弁に間違いはございません。単純に子供の数とその均等割の金額を算出しますと約800万円ぐらいになってきます。ただ、所得の軽減が効いてあったりとか、国のほうの施策というか、未就学児の軽減というのはちょっと加味されていまして、もう少し金額は下がるかと思っております。

また、基金のほうですが、令和5年度末、議員おっしゃいましたように約8,900万円の基金がございます。今年度、まだ正確な数字は出ていませんが、約5,000万円ぐらいのプラスが出るのかなというふうには考えてます。ただ、令和7年度以降については収支マイナスになりまして、徐々にそのマイナスが増えていくというような形になってますので、被保険者の減少もありまして、年々国保財政はちょっと厳しくなるというふうには考えております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 前回は私は個人事業で経営をしており、子供4人を育てておられる方の

話もしたんですが、今回、これを具体的に、その方のことを具体的に紹介したいと思いますが、その前に本町の国保の納期、10期払いでよかったですね。それだけちょっと確認させてください。

○議長（曾根和仁君） 住民課長太田君。

○住民課長（太田貴郎君） 6月から3月までの10期分という形になっております。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 質問の原稿がちょっとどこかへ、すいません。その方の質問の中で、金額のほうが、その方の、ありました、すみません、どうも。

国保税の5期分で、5期分のときに払った分です。その6人ですね、6人分で納入されて、国保税の分で6万8,700円、この金額を納めているわけです。国民年金のその上にプラスして、1人分として1万6,980円、2人分で3万3,960円、合計で10万2,660円ですか、これを1年で10回納めるわけです。しかし、納める側からしますと、毎月10万円を払わないかんという思いだとその方は言います。10期といっても、結局早かったり、遅かったりしますので、毎月払っているのと同じ感覚だと、その方は言われるわけです。

そして、その方は、これではもう貯金もできないし、子育てするだけでも精いっぱいだと。せめて均等割の子供分、これ税金も納めていない子供なのだから、半額にもしてくれたら子供の分だけでも少しでも貯金に回せるということを話をされていました。そういう訴えです。

それで、国でもやっと未就学児の半額支援、保障をせざるを得なくなっているという状況ですから、ぜひ子供のこの均等割の分、全額とは言いませんが、半額支援、検討できないかということで、そうしないと子供が少ないほうが生活しやすいということになってしまっていて、少子化を促進、促すことになってしまいます。だから、そういった手を考えていただきたいと思うんですが、それはどうでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 住民課長太田君。

○住民課長（太田貴郎君） 国保財政につきましては、今、県が財政の主体となって運営しております。令和12年度の保険料完全統一を目指して運営が行われてます、その移行過程でもありますし、また独自施策を打ちますと交付金への影響も考えられますので、町単独での独自施策というのは現時点は難しいというふうに考えております。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 今、国保の基金で、先ほどお話ししましたが、8,900万円ですか。今回はちょっと新たに積み上がるという状況の中で、確かに令和7年度から減少に入るということも言われておりますが、それであれば少しでもそれに対応できるときに、例えば単年度に限ってでもそういうことはできないのかということをおもうんですが、それは無理なんでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 住民課長太田君。

○住民課長（太田貴郎君） 基金8,900と申しあげましたけども、現状の基金が多いというふうな認識は持っておりません。また、あの一応単年度単年度、収支を見ながらそのときそのときに

保険料の設定をしているというような状況でして、令和5年度から6年度にかけましては、少し収支、プラスが出るのかなというところで保険料の引下げも、全体的な財源的に見た引下げもさせてもらいました。

今回につきましては、先ほど言った県下統一の保険料に向けて令和9年度まで資産割の削減を求められていますので、それを減して、その分の財源を所得割に求めるという形でやってまして、収支については来年度はほぼプラス・マイナス・ゼロかなというところであります。それ以降は、またかなり大きなマイナスということになってきますので、その基金を今現在取り崩して何かをするというような考えは現在持っておりません。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 税の問題は、やっぱり恒久的な要素が非常に強いですから、そういう意味では相次ぐ公共料金の値上げの中で、ほんまに町民の生活は厳しいものが出てきていると思います。だから、そういう意味で言うたら、令和7年度から財政的には厳しくなると、マイナスになるのではないかというんですが、そういう財政的なシミュレーションは何年間でどうなるかというようなやつはお出しなんでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 住民課長太田君。

○住民課長（太田貴郎君） 財政シミュレーションはやっていまして、7年度以降、収支はどんどんマイナスが増えてくってというふうな形になっております。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） であれば、何年度ぐらいに枯渇していくんかというようなことも含めて、今後そういうやつを出してもらわないと、やっぱり私らのほうでは、増えてきているなどということだけが、まず今の現象としては残ってますので、ぜひそういう意味で言うたらシミュレーションを具体的に出していただいて、国保のほうも何年後にはこうなりますよということを出していただければと思います。

そして、20代の男性の方で、これは既婚者の方ですが、彼もこう言うておりました。

年金の払う掛金、これを払う余裕もないということで、彼は仕事もしておりますが、一回も払ったことがないと、こういうふうに言われました。安心して子供を産んで育てる、こういったことも今はもうほんまに考えられませんかというふうに言うておりました。

私は、この間の一般質問でも、子育て世代とその子供たちの町外の転出が多いことも指摘しております。その子供の均等割の分については、実際に軽減をしている自治体もあります。そういう意味では、結局、公共料金も相次いで上がるということの中で、子育て世代が安心して子供を育てていく、逆に子育てしにくいという町としての評価につながっていくのではないかと、このことを心配するわけです。

中学校給食も和歌山県下では和歌山市と共に最後まで残ってしまいました。その関係で、当然給食費の無償化も遅れております。そして、18歳までの医療費の問題も、県下では、これは前の町長のときのほうが多分問題だったと思うんですが、真ん中ぐらいで医療費の無償化に、

中学校までの医療費の無償化に踏み切ったというふうに覚えております。そして、18歳までの医療費も、多分県下では真ん中ぐらいではなかったかなというふうに思ってます。しかし、隣の太地町では、教材費の無償化も進めておられて、私は何といたってもそういう子育て世代への支援がやっぱりとりわけ大事ではないかというふうに思うのですが、そういった意味でのぜひ今後シミュレーションも出しながら、少しでも、現に踏み切っている自治体もあるわけですから、そういうところで検討はできないものかということをお願いをして、次の質問に移りたいと思うんですが。検討していただきたいといっても、多分無理という返事が返ってくると思うんですが、やはり子育て世代、子育てが安心してしやすいような町にさせていただくということで、ぜひお願いしたいと思います。

次に、町営バスの巡回コースについてですが、その後、検討されておられますでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 町営バスにつきましては、ルート変更や延長に係る要望などございまして要望にお応えすることが難しい場合もありますが、可能な限り町民の皆様が利用しやすいものにしていきたいと考えてございます。

現在、検討しておりますのは、勝浦線のルート変更となりますが、地域公共交通会議での承認が必要となっておりまして、それまでに委託事業者や地元区との調整を行ってまいりたいと考えてございます。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） ぜひ早急に対応していただきたいと思います。

それと併せて、いろんな方からもお声を聞いているんですが、前回の一般質問でも藤社議員があそこの大門坂の駐車場の問題で、椅子を早く置いてくださいという質問もされておりましたが、バス停で待っておられる方、この方にベンチの整備をしてもらえないかと、これは町営バスのところですね、という声も私はよく聞きます。バス停には、狭い広いもいろいろありますので、バス停の椅子のサイズですね、こういったものも調整してもらうことも必要だと思うんですが、今の紀州材を使っているやつは一定のサイズになっていると思いますので、そういう今後の検討として、バス停にもそういうサイズも調整しながらの整備、これを考えてもらえないかということをお願いをしたいのですが、それはどうでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） バス停の椅子、ベンチにつきましては、現状といたしまして、役場などの施設に併設しているバス停にはおおむね設置されております。しかしながら、道路沿いにあるバス停につきましては、安全性等が課題になりますので、関係法令やバス停周辺の状況、利用者数なども確認の上、もし設置が可能ならば個別に設置していきたいと考えております。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） ぜひ可能であれば早急に対応していただきたいというふうに思います。やっぱり私らもよく見かけるんですが、ああいうとこで待っておられる方、自分で車を運転して行かないわけですから、やっぱり高齢者の方が圧倒的に多いので、できるだけ早い段階でそ

ういう対応をしていただければと思います。

次に、前回にもお願いした避難場所としての那智中、体育館の裏山の急傾斜地の危険性です。これについても早急に対応をお願いしたんですが、その後の進捗状況はどうなっているか、分かりますでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 建設課長井道君。

○建設課長（井道則也君） 那智中学校の裏山につきましては、土砂災害特別警戒区域に指定されております。そして、現在の状況としましては、和歌山県に現地を確認してもらっておりまして、来年度、町から正式に要望することになっております。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 来年度予算として要望するという事になっておるとは思いますが、この自然災害のほうももう全国的にも大変な状況が続いております。そういう意味で一刻も早い対応を取っていただけるように、ぜひ強く今後も働きかけていただきたいと思います。ぜひお願いできませんか。

○議長（曾根和仁君） 建設課長井道君。

○建設課長（井道則也君） 議員おっしゃいますように早期に、事業としては和歌山県のもので、私どもも早期に着手、計画してもらえるように要望を続けていきたいと思っております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） そして、これは前回のときもお願いしたんですが、防災の備えからということをお願いしました、色川地区での突発的な災害、これを受けてのことで、町独自の支援の対策ができないかをお願いしたところ、全国的にもまだまだ少ない中で那智勝浦町としての被災者生活再建支援金制度ですか、これが常任委員会のほうでも提案をされました。全国的にもまだまだ少ない中で、早速検討していただいたということで、関係者の方も本当に感謝をしていると思いますが、そういう意味で言いますとありがとうございます。ぜひ今後は、こういったことが発生したときに、住民の皆さんに少しでも安心してもらえる、こういったことが体制が取れていくんじゃないかなと思うんですが、その上でさらにもう一步踏み込んでお願いできないかということが1つあります。

それは、今回の被災者生活支援金制度の課題です。これ問題は、今年のこの災害を受けて考えていただいたものだと思うわけですが、結局今の段階で言うたら、その方に対しての支援はないということになる、今後のことになるわけですね。けども、半年前以内で起こった事案だけに、ぜひそういったこと、遡っての検討はいただけないのかと。いわゆる遡及です、遡及の検討。これをできないかということで、厳しいということもよく分かるんですが、何とかいまして知恵を絞っていただくということができないのか、その点でちょっとお聞きしたいんですが。

○議長（曾根和仁君） 福祉課長仲君。

○福祉課長（仲 紀彦君） 遡及の検討をお願いできないかということでございます。

色川、昨年度の被災された件につきましては、災害見舞金しかない状況で、そこは申し訳なく思っております。町の独自制度としまして被災者生活再建支援金制度、こちらのほうを令和7年4月1日から施行させていただきたいと考えております。遡及の検討ということでございますけれども、様々な行政サービスがある中で遡及して適用していくということは、公平なサービスの観点から特例的に進めていくことは難しいものと考えてございます。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 参議院の法制局で遡及適用ができないのかということで、ちょっと調べさせてもらったんですが、法制局のほうで出している文書の中に、その条例が決めた場合の経過措置とそれから遡及適用という項目がありまして、そこで書かれていることが、法令は国民の権利義務に影響を与えるものであるもので、既に発生し成立した状態に対して、新しい法令をその施行時点より遡って適用すること、すなわち法令の遡及適用は法的安定性を害し、国民の利益に不測の侵害を及ぼす可能性が高いため、原則として行うべきではないとされていますというふうに書かれているんですが、その後、しかし、国民の利益になる場合や国民の権利義務に影響がない場合には、遡及適用を行うことも許される場合がありますと。例えばということで、災害からの復興を目的とする法令とか、その内容に国民や法人にとって利益になるものがあれば、そういったものは遡及適用が行えるケースもあると言えるというふうに書かれているんです。ぜひこういったことも含めて、遡及適用ができないかということは、大変だろうと思いますが、ぜひしっかり調べていただいて、上のほうともいろいろと相談していただいて、そういうことができないのか、ぜひ検討をしていただければと思うんですが、ぜひお願いできませんか。

○議長（曾根和仁君） 福祉課長仲君。

○福祉課長（仲 紀彦君） お答えします。

遡及の検討をとということでございます。

議員おっしゃいますように、今、資料を読んでいただいたわけですが、遡及適用するということは住民の利益になろうかと思いますが、一方で遡及することでほかの住民の方の過去の事例等における権利義務に影響がないとは言い切れません。

以前に、町内で土砂崩れが発生し、住家に土砂が入り込み、避難生活を送られて、補修後、家に戻られた方がおりました。当然、当時、支援制度がありませんでした。そういった事例もございまして。特例を認めていくということは、他の様々なサービスにおいても、そういったことを考慮していくことが必要となってまいります。何とかという気持ちもあろうかと思いますが、特例的に遡及して進めていくことは難しく、考えてございません。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） そういう点では大変だろうと思いますが、全国的にそういう形で遡及適用がされたことがないのかどうかも含めて、ちょっと調べていただいて、検討のほうもちょっと深めていただければと思います。

次に、長期総合計画と地域おこし協力隊、集落支援員での問題の質問に入りたいと思うんですが、まず長期総合計画についてです。

現在実施しようとしているというアンケートの中で、これは私の質問の通告の文言の中にこういうことを入れていたんですが、もう既に実施をされたということでしたので、そのところはもう飛ばしますが、私はこのアンケートを取るに当たって、多分前回と同じ内容のものだったと思うんですが、10次計画ですか、立てるときのと同じ内容、そうですね。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） アンケートが10次のときと同じだったかというところですけども、今年の新たな総合計画のアンケートにつきましては、昨年12月3日から20日までの期間ということで既に実施してきております。基本的には、10次のアンケートと同じ内容になります。各施策の現状の満足度、優先度の以前からの比較、効果検証も含めて把握するものになっております。

また、今回のアンケートでは、国が推奨する全国の統一の設問、幸福度、よくウエルビーイングと聞かれるかと思いますが、そういう項目を入れてきております。地域幸福度指標とは、町民の暮らしやすさ、幸福感を数値化、可視化する数値でありまして、町民の皆様が日々の暮らしの中で感じている幸福度、生活満足度を把握し、その結果をまちづくりに反映していきたいと考えております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） アンケートの集計というのは、やっぱり前のと比較してどう変わったかということが大事だと思いますので、その必要な部分もあろうかと思いますが、そういう意味で、今回新たに全国統一で幸福度ですか、そういうことも調査するということでされておりますが、その結果はどういうのが出てくるか、楽しみにしたいと思いますが。

しかし、この間、やっぱり私たちの町民の生活が一体どうなっているのかという、この間、ずっと私も言ってきましたが、やっぱり相当生活の厳しさが出てきていると思います。そういう中で、私たちが納めていく税金というのは、少しでも自分たちの生活が安心してできる地域づくり、それから福祉、教育を進めていくために、これを再分配しながら考えているわけだと思います。だから、町長のほうも安心・安全のまちづくりを最初の大きな柱にしてるのは、多分そういうことだと思うんですが。生活実態を踏まえた町民のアンケート、これを総合計画に、やっぱりアンケートに基づいてどういうまちづくりをしていくかと、そういう生活自体を踏まえた町民の皆さんのまちづくり、何が、どういうことを望んでいるのかということも含めて知っていただいて、そしてそれがやっぱり私は町長が声なき声を聞くということをいつも言っておられますが、そういうことにつながるのではないかと。それが私は町政運営の基本だと

と思いますが、そこらはどうでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 長期総合計画の策定に当たりましては、今回の住民アンケートを含め、いろいろな検証を行っていきたいと思います。また、福祉や子育ての各分野の個別計画、こちらも策定に当たってはいろいろな調査、分析を、またいろんな意見をお聞きしてつくったものでありまして、そちらの整合性を図っていき、連動した計画にしていきたいと思っております。

町の目指す将来像として、第10次長期総合計画では、「住んでよかった・住み続けたい・住んでみたいまちの実現」として計画を貫く視点としては、防災・減災対策の推進、福祉施策の充実、観光による活性化の3つを挙げて取り組んできました。次期総合計画の策定に向けては、先ほどから御指摘のある住民アンケート結果や、先日行われました住民ワークショップでいただいた意見や課題を踏まえて、またこれを審議会で議論して、町民の皆様の思いに添えるような計画の策定を進めてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 長期総合計画の問題については、ちょっと後でも、道の駅のところで発言をしたいと思います。やっぱりなかなか計画どおりには行きにくいという側面も多かろうかと思えます。そういう意味で少しでもこの総合計画が皆さんの生活に密着したものになっていくということでぜひ取り組んでいただきたいというふうに思っています。そのためには、やっぱり私は町民の生活の実態の上を踏まえて、どういう施策を取っていくかと、計画を立てていくかということが大事やないかなと思います。特に子育て世代の減少についての問題、これは前のときからも言っておりますが、やっぱり減少しているわけですから、子供も含めて減少しています。そういう意味で最善の策を講じるべきだというふうに思っています。

ただ、那智勝浦町のほうは全国的に見て、これから地域おこしの問題のことで触れていくんですが、移住者の受入れ、これが全国的には先進を、全国的に見ていくと移住者の受入れ、これの先進地域になっているというふうに思っています。そういう意味では、現在の地域おこし協力隊の存在も大きいと思うんですが、その全容がなかなか分かりにくいんです。といいますのも、先日の予算の説明の中で、観光企画のほうでガイドとしての地域おこし協力隊の人の活用も話をされておりましたが、結局その地域おこし協力隊がどこに何人がどのように配置されているのか、この全体像が私らにはちょっと見にくいんです。そこで、もし分かれば、その人数と担当の場所等が分かれば教えていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 地域おこし協力隊の配置の関係で御質問いただきました。

観光企画課関係では、現在、地域おこし協力隊の人数は4名です。太田地区に1名、色川地区に2名、そして先ほどありました観光ガイドとして、那智勝浦の観光機構のほうに英語対応の観光ガイド育成ということで1名配置してございます。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） そういう中で、この間、空き家対策として地域おこし協力隊の方を配置するということで聞いたんですが、これ1人ですか、2人ですか。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 今回、協力隊のほうの募集、配置について御提案させてもらった人数については1名であります。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 複数であれば仕事もやりやすいと思うんですが、1人の方の場合、以前でこういうこともありました。地域おこし協力隊を活用されたわけですが、活用していくわけですが、どんな町をつくっていくのかという、私はまちづくりのプラン、これが非常に大事じゃないかと思います。これがないと、空き家対策で地域おこし協力隊の方を求めていっても、下手したら失敗をしてしまうと。空き家対策だけじゃなくて、そのまちづくりのプラン、こういったものに基づいて地域おこし協力隊を募集する、そういう形を取っていかないと、空き家対策だけでやりますと、ちょっと心配なことがあります。

これは私、あるところで聞いたんですが、空き家対策で地域おこし協力隊を採用した、配置したところ、地域、自治体がありまして、ところがその地域に回ったときに、結局十分な取組ができてないから、その地域おこし協力隊のことが不審者扱いをされて、非常にづらい思いをされているという話を聞きました。結局、地域というのが、そういうので身近にそのときにこういう空き家対策で入りますよということの周知も含めて、しっかり徹底されていないと、こういった点は難しい点があるのではないかなと思いますので。そういうまちづくりのプランをなしに際すると、こういったことも起きてくることも心配されますので、長期総合計画に着手しているというところなんで、それと併せて協力隊の活用を考えていただきたいと思うんですが、そういう中でプランがあれば教えてほしいんですが、なければまた今後の検討の課題でぜひお願いしたいと思います。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 地方における共通の課題である空き家問題です。人口減少や少子・高齢化による世帯数の減少などに伴い、使用されていない住宅が年々増加しております。空き家は適切な管理を行われず放置すると、防災、防犯、安全の問題に加えて、環境、景観の阻害要因となります。地域住民の生活環境にも悪影響が出ますので、全町的な課題であると考えております。このため、空き家対策の取組を進めるため、今回新しく空き家対策業務での協力隊を募集したところです。

業務といたしましては、空き家の調査の把握、また県空き家バンクへの登録推進、加えて防災・減災対策としての不良空き家の把握など、幾つかの業務を担っていただく予定としておりますが、議員御指摘のとおり、1人で回るとするのは非常に大変かなと思っております。町の

職員や、先日来、県の空き家対策の協力隊も採用されております。そちらの方とは町の職員とも連携しており、既に連携を始めておりますけれども、そういう部分で複数での対応になるよう、そういう形で進めておりますし、議員が先ほど御心配していただいた地域の方々の部分については、地域の方々と協力して連携を進めていきたいと思っておりますし、この点が一番重要なかなと考えております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） せっかく来てくれたのに、その方が孤立しないように、ぜひ職員なり、そういういろんな方を配置して、そして地元の人もできれば一番参加してもらおうのが、やっぱり情報をいろいろ聞かないかんでしょう。そうしますと、今のこの世の中で大変なことが全国的に毎日のように起こってますんで、そういう地域の人たちに安心してもらうためにも、ぜひ複数の体制で取り組んでいただきたいというふうに思います。

それから、僅かな人口増かもしれないんですけども、全国では1%の人口増を目指して具体的に取り組んでいる自治体もあります。ぜひ研究をしていただきたいんですが、私は、これもう2回ほどちょっとさらさらっと読んだんですが、「田園回帰1%戦略」という、これは中山間地域を抱えている自治体がこういったことに取り組みながら、大変だけれども、徐々に人口を取り戻していくという取組をされているところの報告がされております。これには那智勝浦町の色川へ移住されてきている方の話もこういった本の中で紹介をされております。そういうことで、少しでも人口を増やしていくということをぜひ研究して取組を進めていただきたい。そのときに、私はこの地域協力隊の存在が非常に大きな課題になるのではないかなというふうに思います。

といいますのも、何といたしましても地域おこし協力隊、この人たちの存在はやっぱり若いですよ。そういった方たちがたくさん来られるということの中で、例えば本町にそういう具体的なプランをいろんな方が持っていれば、そういったことでの一人でも多くの地域おこし協力隊の方を受け入れることができる。そして、仮に任期が終わったとしても、この町に魅力を感じれば残ってくれるんじゃないか、一人でも多くの人が残ってくれたらいいというふうに思いますし、現にこの町で残ってくれて頑張っておられる方もおられます。そういう意味で、こういう意味でのプランづくり、これは先ほどもいろいろ畑下課長が答えてくれましたが、役場で言えばやっぱり観光企画になると思うんですが、そういったちょっと具体的な検討も含めて考えてもらえませんか。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 今御意見いただきました移住・定住の推進施策につきましては、観光企画課のほうで取り組む事業になっておりますので、いろんなプラン、長期総合計画の中でも検討してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 先ほどこういう本も紹介させていただいたんですが、本当に人口を少しでも増やしていくための努力、そういった自治体は全国に結構あると思うんです。ぜひそういう意味での研究をしっかりとやってほしいなど。これは観光企画課だけでなく、やっぱり町を挙げてのそういう取組が私は必要じゃないかなと。それがやっぱり子育てしやすい、いろんなまちづくりも含めて考えられていくことになるんじゃないかなというふうに思います。

こういったことの中で、移住者の人たちが、色川山里ラジオというのを、ラジオ局をつくって色川のよいところを全国に情報発信している、これは知っておられますか。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） このラジオの件、申し訳ございませんが、私のほうでは認識しておりませんでした。今回、質問を受けた、教えていただいた後、去年の7月から放送されているということで、今ちょっと前半のほうから聞き直しております。通勤の社内の中で聞いておるんですけども、人間性を感じるような、ほっこりするような内容で、これからまたいろんな人のメニューもありますんで、ちょっと楽しみにして聞きたいと思っております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 私は、この色川山里ラジオ、これを聞いて、先ほど言われましたようにほんまにほっこりするんですね。ほんで、これは月に1回、多分やっていると思いますんで、毎月毎月いろんな形で情報が提供されると思います。これは、移住者の人たちだけにこれを任すのではなくて、ぜひ色川という中山間地域、これを全国に紹介して、移住者を増やしていくためにも町を挙げて、町挙げて一緒に取り込んでいってほしいと思います。

移住して来られた方たちが、そういう意味で独自の目線で話をされている。こういう中身になっていて、非常に本当に、先ほども言いました、聞いていてほっこりするという気持ちになります。本当に楽しいです。いろんなパターンのやつがありますので、ぜひ遡って聞いてみてください。

この中に、もちろん地元の方も出演されております。現在、色川で農家民泊をやっておられる方もおられまして、特に私が驚いたのは、この間の中で、この色川民泊にインバウンドでたくさん来ているということなんですよね。ほんで、直接その人と電話でお話しさせて聞かせてもらいますと、お客さんのほうもコロナ明けから増え始めまして、2年前の1年間ですと、何と380名の方がお客さんが宿泊されている、そこに。そのうち82%の方が24か国だということなんです。多分312名ぐらいの数だと思うんです、はインバウンドのお客さんだということなんです。そして、去年はさらに増えて450人、このうち86%が26か国からのインバウンドだという紹介もされていましたが、それは御存じでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） ちょっと農家民泊の個別の数値については把握しておりませんが、コロナ明け、全体の観光客数、増えておりますけれども、それを上回る勢いでインバウンドのお客様が aumentando していると認識しております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） この方が一番最初にインバウンドのお客さんの受入れを要請されたのが、田辺の熊野ツーリズムビューローですか、ここからの依頼だったらいいんです。そやから、本来やっぱりうちの観光機構がそういったことに広げながら、いろんな手を打つことを考えていかないと僕は駄目じゃないかなと思うんです。結局、それであれば、ほかの自治体の力を借りているということになりますんで、ぜひ今後そういう形での、一緒になって色川山里ラジオを盛り上げながら、そういう地元の方を生かしながら取組を進めていくということで、ぜひ観光企画のほうもやってほしいなと思うんですが。

その色川山里ラジオの話聞いてまして、色川の出張所におられた方ですが、その方の話を聞いていると、やっぱり郵便局との併合、私は色川ではちょっとあり得ないんじゃないかというふうに思ったんですが、色川の地元のほうから出張所としての存続の要望というのは出ておりませんか。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） お答えします。

昨年12月4日に実施いたしました色川地区町政懇談会におきまして、出張所は役場の窓口機能としてではなく、それぞれの地域の実情に合った機能を担うことを検討してもらえないかという要望はいただいております。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 私は、色川のほうからそういう要望が出ているのであれば、ぜひそれを聞いてあげてほしいなと。やっぱり色川は移住者の受入れでも全国で先駆けた先進の地域であって、これまで出張所の職員の皆さんが大変な思いをしながら移住者への対応をしてきたというのは、この山里ラジオを聞いていますとよく分かります。結局、空いた家を探すことから、その人との、家の持ち主との交渉ですね、そういったことも含めてここが取り組んでこられたそうで、色川にとっては、やっぱりそういう地域に密着した方が入られることが一番望ましいんじゃないかというふうに思うわけです。

太田の郷のように、地域というか、その地元をよく理解して、地域と密着した人が出張所に太田の郷なんかは配属されていると思うんですが、結局その方は多分集落支援員か何かで配属されているというふうに聞きましたけども、その中山間地域で頑張っている色川の人たちへの、その思いをしっかりと受け止めて、その地域に合った出張所として残すべきではないかと私は思います。色川にもともと住んでおられる方、そしてそこに根づいている移住者の人たちがいて、今の色川があるわけですから、その声をしっかりと受け止めて対応していただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 出張所につきましては、役場のサテライトの事務所として本庁各課との連絡調整を行う役割を担っております。集落支援員につきましては、集落点検の実施や、

集落の在り方についての話し合いを通じて、必要と認められる施策につなげていくことが役割でございますので、出張所と集落支援員を同時に実施するのは難しいと考えてございます。色川地区町政懇談会におきましては、地区の方にも御説明させていただいておりますが、出張所に関しては、よりよい在り方を外部委託も含めまして検討しているということで御説明させていただいております。さらなる機能を出張所に与えるというのは難しいと考えますが、現在の体制ででき得る範囲内で地域の方と話し合いを進めていきたいと考えております。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 色川の出張所を外部委託で考えていると、ちょっと僕は論外だと思うんですよ。まして、これから地域の、中山間地域になって移住者をたくさん受け入れてやってきている地域ですから、やっぱり地元の人、地元に着密してる方じゃないと、色川出張所の取組はできないんじゃないか。ただ事務的なことだけをそこでやるのが出張所の仕事でも僕はないと思いますよ。やっぱり出張所での限り、役場とのパイプになって、地域づくりをどうしていくかということは考えていかなければならないわけですから、そういう点での取組をぜひお願いしたいと思います。

だから、僕は色川出張所に外部委託というのは、ちょっと考えられません。それで、ほんまに色川が発展するんでしょうか。せつかくあそこに中山間地域に色川の中学校、ああいうものまで立派なものが建ってるわけですから、それを受け入れていくための取組をしていかないと、それは何よりもやっぱり一番大事なのは、地域をよく知っている方、地域の方だと思うんです。そういった方を入れて取り組んでいかないと、僕はそういった外部委託していたら失敗すると思うんですよ。それはどうですか。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 出張所でございますけども、色川に限らず、町内4か所の出張所がございます。その4か所につきまして、よりよい在り方を現在検討しているところでございます。先ほども御説明させていただきましたが、出張所機能というのは、役場本庁との連絡調整というところが中心となってきてございますので、地域の課題解決であったり、地域の発展につながる役割というものは、また出張所機能とは別の部分で検討すべきかと考えてございます。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） いや、その地域にあつて、出張所の所長さんがその地域のことに取り組めなくてどうするんですか。そんな事務的な作業だけやったら、誰だってやりますよ。けども、一番大事なのは、僕はその地元をどう生かしていくかということだと思うんですよ。そのこと抜きに、そういうようなのはほんま、そういうのを机上の僕は議論だと思いますよ。それで、色川の地域が発展するんであれば、本当に苦労はせえへんと思います。ぜひそのことを、色川を4か所と同じに考えずに、やっぱり色川の出張所はある意味で言うたら、移住者を受け入れてきたという歴史的な経過があるわけですから、そこをしっかりと考えて対応していた

だきたいと、このように思います。

これだけやっても時間が足りませんので、次に道の駅の問題に行きたいと思います
が、その前に観光の問題でもう一回、もう一つだけ言っておきたい。

時間の関係があるんで、それはちょっと弁天島ですね。これについて、正月に私も教え子から連絡があって、弁天島に大みそかから正月にかけて渡ってきたというんです。えっと思って電話して聞いたらそういうことで。家の前に土産物を置いてあったからびっくりして見たんですが、そういうことだったんです。ほんで、結局あそこの町、それが二十数年ぶりに一回の出来事だったらいいです。そういう意味では、ぜひあそこのライトアップも含めて、あそこは金運の神様とかということも私はその教え子から聞きまして、そんなこともあるんかということ。そういうのが二十数年ぶりに一回のときに、何ら那智勝浦町のホームページや観光企画のホームページでもそういったことは一切紹介されてないというような状況の中で、新たな観光客を呼ぶということにしたって、そういう取組を大事にしながら、資源を大事にした取組をしながら進めていかないと駄目だと思うんです。そういう点でぜひ弁天島のライトアップも含めて、ほかのところでは結構やっていますんで、ライトアップも含めて、そういう紹介を旅館やホテルと一体になって取り組んでいけないかということも提案したいと思うんですが、どうでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 弁天島の活用、また渡れる日の紹介ということで、弁天島に渡れる条件としましては、潮位が30センチ以下の場合になります。季節によっては月に数回渡れる日もありますし、月によってはほぼほぼ夜中の時間帯、深夜帯でないと渡れない月とか、ちょっと私も天文は詳しくないんですけども、そういうことで案内することが非常に難しいこともありますし、海岸の安全確保という問題もありますので、そこについてはホームページなどでは案内は行っておりませんが、電話などで問合せがあれば御案内させていただくようにしております。

また、勝浦観光機構においても、かつうら まち遊びマップということで、まち歩きの紹介においては積極的に弁天島をお勧めしていると聞いております。干潮時に島に渡れることなどを説明したり、町内散策の観光資源の重要な場所と認識しております。

また、ライトアップにつきましては、弁天島の地域としましては、吉野熊野国立公園内でありまして、ライトアップを行う際には環境省の許可が要るわけですが、自然景観を生かす色を使用するか、生物や植物の生態系に影響がないか、事前に専門家による調査を依頼するなどの確認する必要があります。また、周辺にお住まいの方、また関係団体、海上保安庁、漁協との協議も必要となってきますので、かなり幾つかの調整が必要になってくると考えております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） いろんな観点で相談していただいて、そういう方法もぜひ検討していた

できればと思います。

もうちょっと時間もありませんので、最後に道の駅の問題について質問に移りたいと思いますが。

先日の私も青岸渡寺で熊野世界遺産登録20周年の記念行事に参加して、その中でも隈先生の話、講演で、これからは自然が一番大事だというお話を聞いて、本当にそう思ったわけです。だからこそ、今、世界でこの異常気象の中で大変な自然破壊が起こっております。だからこそ、この熊野の地にあっては、自然、文化それから歴史、ジオや温泉、マグロ、こういったものなど、自然と歴史文化を柱にしたことが一番大事ではないかと思います。

特に那智山周辺は世界遺産との関連で考えますと、曼荼羅の絵解きでも紹介されておりますように、那智の浜はこの地の中辺路、大辺路の入り口で、熊野古道とは切っても切り離せないと思います。私は、大門坂の駐車場のリニューアルも大事だと思います。道の駅の整備と同時に進めるべきだというふうに思うんですが、その中で世界遺産情報センターの改修もしていかなければなりません。私は、あの世界遺産情報センターを見ていまして、あそこに何で補陀洛山寺の渡海の船ですね、渡る船を紹介、実物とはいかなくても、ちょっと小型なやつを置きながら、そして補陀洛山寺も紹介もし、そしてこの曼荼羅の絵解きをするようないろんな形のやつを、本人さんに来てもらう場合には計画的に取り組まないかんし、その移転の費用も払わないかんし。でも、例えばビデオでそういうものを紹介するとかということも含めて、いろんな方法を私は考えるべきだと思います。

ほんで、こういった資料館をなくしてしまうと、道の駅エリア全体を、全体として見直しを進めてきたこのプロジェクトチームというのが、意味が何の意味があったのかなというふうに思うわけです。コンサルが出してきた3つのシナリオ、その資料センターのところに物品の直売所を設けるといふ案が提案されております。しかし、あの場所はまだ御存じのようにバス停で直売所に物を持ってきた人たちも、そこに車も止められません。そういった意味で、私は先日の全員協議会での当局というか、町長の話聞いてまして、逆にそう思わざるを得ませんでした。私は、だからその話の中で、結局は丹敷の湯の閉鎖ありきという話の中身だったのではないかと思うんですが、それはどうでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） お答えします。

まず、P Tで意味がなかったのかということですが、当時P Tでも検討した結果、最終報告では、直売所を情報センターに統合し、温浴施設を廃止するというような報告になったかと思っております。

情報センターにつきましては、もともと直売所がそこにありました。現在の場所に移るまでは、那智駅前から車を止めて納入している状況でございました。今後、方向性が出れば、那智駅前のスペースを有効に活用できるよう、J Rと協議したいと考えております。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 今回の最終報告についてもですが、私は今も言いましたけども、結局、前に新聞報道があった町長の、いわゆる熊野新聞で報道されたことが一つは基にあって、いろんな話が進められていったのではないかというふうに思えてならないんです。今回のコンサルの最終報告、これみんな、私も非常に気になることがあります。これはそちらのほうに私の質問の資料を渡していますので、もう分かっていると思いますが、例えばケース4、ケース、コンサルのシナリオの3つの中にこの丹敷の湯の計画はあったとしても、ケース4からケース6のところでは、こういう表現が使われているんです。温泉廃止反対派という言葉が出てくるんです。これにはちょっと驚きました。ほんで、この表現の仕方ですね、これは当局のほうから、こういう表現はちょっとやめてくれというような申入れはしなかったのかなというの思います、発表の前に。

もう一つ気になるのは、リストラ色が強いという表現です。これが最後のほうにしっかり書かれているんです、この中に。こういう表現を見たら……。

○議長（曾根和仁君） 10分前です。

○10番（津本・光君） はい。関係者の方は一体どう思うでしょう。署名を集めた人たちもたくさんおられるわけですけども、私はこういう表現の仕方というのは、ほんまに町民を分断する表現だとしか考えられないんです。

ほいで、これが出てきた、報告がコンサルから出てきた背景には、結局当局との話合いの結果としてこれが出てきているわけだから、私は当局の受け止めがもうそうであったから、そういう言葉が生まれてきて、使われてきて、それに関係する当局のほうに気がつかなかったか、それを逆に流してしもうたかという感じがするんです。

多分当局のほうは、これはしっかり目を通して見てると思うんですが、私、そやから全協で説明があるときにも、これを言い始めるともう時間、私の3回の質問では行かへんから、もうこれ持っていかなかったんです。その中で質問させてもらったんですが。

ぜひそのところで、町民目線で見ますと、私はこういう表現が正しいと思うんです。丹敷の湯を継続を願う人たち、これが正解だと思うんですよ。それを温泉廃止反対派とかという表現の仕方にくっつけている、一くくりにしている、これはちょっと許されないというふうに思うんです。そこらはどういうお考えでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） お答えいたします。

議員からありました最終報告書の表現についてということですが、想定されるケースとそのメリット、デメリットを整理した表の中での表記で、デメリットの中に記載のあった部分かと思えます。温泉廃止反対派の後の言葉に、議論、対話が必要だと続いております。その部分だけを切り取るのではなく、全体の文章で読み取っていただき、御理解いただければと思います。

また、リストラについても、温泉を廃止するだけではリストラ色が強い、デメリットでございますよってというような表現としております。リストラの意味は事業再構築という意味もござ

います。決して人員削減を推進するものではございません。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 本当、それちょっと今、答弁にはなっていないと思います。この言葉自身が出てくるのが問題なんです。そこに後に継続してこういうことが書かれているかということが問題じゃなくて、この言葉自身が出てくるのが問題なんです。ほんで、これがこういうコンサルを出しての表で、町長のほうもこれを見て、このコンサルの報告を見てすっきりしたと言うてるわけですから、こういう目次も含めて、これはそういうふうにすっきりしたのであれば、ちょっとほんまに僕はおかしいと思うんですよ。

町長もそのときの発言の中で、道の駅がなぜ問題かということ赤字だからといって、道の駅の問題を取り上げた、こう言うわけですね。丹敷の湯は赤字だから何とかしないと、そして町民1人当たり1,000円も負担しているということまで言われてました。ほんで、那智勝浦町の大赤字だと、消防本部も大赤字だと。しかし、これらは公共の福祉事業だからやむを得ないんだという話だったです。だから、私は結局、この話の中で丹敷の湯の閉鎖ありきで話をされていたということを、私は痛切に思うわけです。

まだ前のときのさっきの話、PTの話に戻りますが、副町長が座長になったというのは、結局私はそこでやっぱりいろんな人が発言しにくいです。PTをつくるのであれば、やっぱりいろんな立場で発言しやすいように、若手の人を登用するとか、そういうことで自由な論議が闊達にされないと、それを基にしてプロジェクトチームとして新たな方向を考えるということもしないと、副町長が座長になった意味で、僕はPTというのは町長の意向に沿って動くというふうに捉えております。それが間違いだということであれば、そういう指摘でもしてもらったらいいですが。

だから、そういうことで一番最初、新聞報道にあった中で……。

○議長（曾根和仁君） 5分前です。

○10番（津本・光君） はい。結論が進んでいったようなふうに思えてなりません。

ほいで、第10次の総合計画に、この道の駅についてもちゃんと書いているんですね。ここでは、道の駅を観光客に魅力ある施設として運営しますということで書かれて、その前に幾つかの弁が、読んでたら時間がかかりますので、熊野那智世界遺産情報センター、それから日本サッカーゆかりの地の情報発信、これを拠点として頑張っていくというようなことが出されていますが、そういうことも含めてやっぱり道の駅の問題、ここでは前向きに書かれているんですけども、もしこれで赤字赤字が大変だということで出すのであれば、何でこのとおり、ここに長期総合計画に出されて、こうこうきちんと総括をすべきだとまず思うんです。それを抜きに、いろいろ赤字や何やかやということだけでしますと、私は赤字であればいろんなところが赤字の問題を抱えているわけであって、そういう点でも私は丹敷の湯の存続も含めて、やっぱり福祉の観点で考えることが必要だというふうに思ってます。

これは温泉というのは、私たちが言うまでもなくて、遠いところでも温泉に入りに来るわけ

ですから、その意味は考えたら分かるはずだと思います。湯川でもたくさん大きなホテルもあって、たくさんのおちやなところでも旅館があったわけです。だから、そういう意味で言うと、温泉の必要性というのは分かります。それをどこの家にも風呂があるから、公営浴場は必要ないと言ってしまえば、本当にそういう意味で言うたら、温泉の値打ちはなくなってくると思いますよ。地元にいようがいまいが、やっぱり温泉は心のゆとりや体の治療のためにもよいわけで、だから多くの人に来るわけです。だから、隣の町、400円でやっていますね、太地、棚で。あれは400円です。場所は那智勝浦町内です。

そういったことも考えると、温泉の町だから安心して入れる、温泉で得た収益、これは入湯税もあるわけですから、何のためにあるのかと私は言いたいと思います。特に高齢者の方にたくさん温泉を利用していただくことで、それは言えば高齢者の方というのは、一人で家のお風呂に入るよりも、やっぱり外に行って、近くにあればそこに行き、そのほうが楽し、それから健康のためにもいいし、いろんな人と話もできるわけですから、そういう会話も楽しめる。生きる希望も、頑張ろうという気持ちも出てくる。そういう場所なんですから、ぜひ福祉の観点からも私は町の公営の大衆浴場は必要だと思います。

先日の予算の質問のときにも質問の中で出たんですが、利用者が入浴券1,594枚です。これ金額にすると31万8,800円ですよ。ところが、予算のほうは120万円で組まれています。であれば、やっぱり年齢を引き下げるとか、そういう工夫をすれば、ほいで子供については無料にするとかというたら、僕は利用者は何ぼでも増えると思います。そういうことも含めてきちんと総括をして、何でこれができなかったのかということも考えていかなければならないし、こういう入湯税もあるわけですから、そういったことも活用をしながら、町民であれば安く入れる方法を私は考えるべきだと思います。当然、先ほども言いましたが、入浴者を増やす努力をやっぱりして運営をしていくことが大事だと思います。営業努力をしながら、町民福祉の観点と世界遺産のこの町での出発点という意味で丹敷の湯、僕は考えるべきだというふうに思って、最後ですが、もう時間もありませんので、最後、答弁だけお願いします。

○議長（曾根和仁君） 副町長瀧本君。

○副町長（瀧本雄之君） 議員が先ほど私どものプロジェクトチーム、副町長が座長になったら、もう意見は決まっているようなお話でございましたが、私どもの役場のプロジェクトチームはニュートラルにフラットな立場でおのおのが意見を言いながら新しい方向を模索していく組織でございます。現に、この道の駅のPTについても、福祉の観点から、また海を使った観点から、いろんな新しい政策、またそういうことも検討して、結局、どれもうまく回らないという方向の中で、出費を抑えるにはお風呂を閉めていくのが最善だという方向を打ち出させていただいただけでございます。

○議長（曾根和仁君） 福祉課長仲君。

○福祉課長（仲紀彦君） 先ほどお話の中で、福祉の観点からということがございましたので、少し答弁させていただきます。

福祉の観点からといたしましては、議員おっしゃいますように高齢者入浴券助成制度につき

まして、高齢者の経済的負担を軽減し、福祉の向上を図ることを目的とするもので、温泉には効能がございます。ありますので、心身ともにリフレッシュされ、健康増進に寄与すべく、昨年度より実施しております。

先ほど、ちなみになんですけども、一般会計の予算の説明のときに、1月末現在で1,594枚ということでお話しさせていただいております。その後、最新で2万6,077枚、やっぱり冬の時期でございますので、かなり利用枚数というのは増えてございます。利用者につきましては、高齢者路線バス交通費と同じ、同様に後期高齢者の方、75歳ということで対象としております。引き続き取組を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 道の駅の総括的にちょっと少しお話しさせていただきたいと思っております。

最後のほうでは、町民の方が一人でも多く、そしてまた子供が入ってにぎわいをということでもございました。そういうことも含めて、今回、パートナーズさんにいろんな見地から検討をしていただいて、報告書に至ったわけでございます。

まずは、従前から申し上げてますように、指定管理等を含めて、そして民間の力を借りて道の駅全体を活気づけていただきたい。また、町としてもそれに一緒に取り組んでいきたいというところでございます。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 10番津本君。

○10番（津本・光君） 道の駅の問題ではいろいろありますが、この間、視察に行った揖斐川でも、あそこの改修に1億数千万円のはっきりお金、費用を出しているんですね、町が。やっぱりそれだけそういうところを大事にしながら、ほいでそこはそういう話だったんですよ、そういうところで私が質問したときに。1億数千万円だったと思いますが、ほんで出しているながら、民間の力の協力を得て頑張っていますということで、3つの道の駅を経営されました。うちは、1つの道の駅ですので、力の集中も、前も言いましたけど、できると思います。だから、しっかり本来はこれをもっているいろんな人の意見を聞くのが僕は筋だともそれも思うんですよ。けども、それはせずに最終的に結論だけをぽんと住民のほうに出してしまえば、結局今までの話し合ってきたことの中身も何ら意味もなくなってくるのではないかなと思います。

改めてもう少し丁寧な情報提供、これをお願いして、私の一般質問を終わりたいと思っております。ありがとうございました。

○議長（曾根和仁君） 10番津本議員の一般質問を終結します。

休憩します。再開11時20分です。

~~~~~ ○ ~~~~~

11時08分 休憩

11時20分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（曾根和仁君） 再開します。

次に、3番城本議員の一般質問を許可します。

3番城本君。

○3番（城本和男君） 通告順に従いまして一般質問をさせていただきます。

まず、グリーンピア南紀への大学の設立申出の件についてお伺いをいたします。

私もこの申出をいただいた先生方とお話をさせていただきまして、当地域、熊野地域に本当に強い思いを寄せていただきまして、人口が減少する中で当地域に大学というお話、大変ありがたいと、何とかならないかなと思っております。

田辺市で話が進んでいるというニュースもありましたけども、昨年12月21日に、この地方新聞のほうにおきまして、ある団体が旧グリーンピア南紀に大学を設置したいと那智勝浦町に打診していた。地域の活性化や人口減少に効果があると多くの町民は沸いたが、町はリスクを懸念して難色を示し、何ら進展が見られないまま時間だけが経過してありました。町は難色を示したとありますが、総務経済の委員会のほうで報告を受けましたが、少し違うところもあるんじゃないかなと思っております。多くの町民の皆様方には、この実情が知らされていないように思うんですが、どういう話であったのか、その内容ですね。いつ頃、どのような話が町に対してあったのか、お伺いをいたします。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） お答えいたします。

最初にお話ございましたのは、令和5年11月、旧グリーンピア南紀跡地へ大学設立を検討されております財団の関係者の方が当町を訪問されました。その際に、那智勝浦町立大学としての設立をお考えであるというお話をお聞きするとともに、ホテル棟の内覧を行っております。

また、その後、令和6年1月30日にも財団の方より旧グリーンピア施設について内覧したいとの文書を頂き、2月2日付で施設の内覧は可能ですと文書にて回答しております。また、その文書で財団の資金調達方法として御相談いただきましたふるさと納税の活用については、一企業に対する補助については難しいこと、それから旧グリーンピア南紀の施設の貸与については、この時点では判断ができかねることをお伝えしております。

その後、私立大学としての設立という方向に方針を変更されておきまして、令和6年4月30日には、財団関係者が来町されまして、旧グリーンピア南紀跡地土地の無償貸与などの要望書についての事前協議を行っております。

その後、5月7日に財団から要望書を受け取りいたしましてありますが、その要望の内容につきましては、旧グリーンピア南紀の土地の無償貸与、それからホテル棟の無償譲渡といったことが内容でございました。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 以前から、5年11月ぐらいから話があったということですね。昨年の5月7日に、大学の準備団体のほうから要望書が出されたということですね。町としては、その要望書に対して、ぐずぐずしていたとか、そういうことはないですよ、お伺いします。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 要望書への回答につきましては、令和6年5月15日付で文書にて行っております。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 要望書については、もうすぐに回答が出されたということで。ということは、要望どおりの回答とならなかったということですかね、その点お伺いします。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 要望書への回答といたしまして、旧グリーンピアの土地の貸与は範囲について制限をつけての貸与が可能であるということと、それから貸与に当たって公募を前提としていること、関係団体との同意を得ていただきたいこと、建物の無償譲渡ということでございましたが、それについては不可ですということですが、貸与であれば可能であることを回答しております。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 貸与する土地とか建物、町の財産ですから、設立について賛成であっても、やっぱり一応公募というふうな形は、それはもう取らなければいけません、当然ですね。土地の貸与については、グリーンピアの敷地全体ではないんですけども、大学のできる部分ですよ、トンネルから海側で、要望のとおりかと思うんですが、その要望どおりではないというのは、その建物について貸与じゃなしに譲渡してくださいということですね。取りあえず一応は、できることについてはちゃんと回答はしていると思うんですけども、紀南地方にやはり大学を誘致、それは本町だけでなく、やっぱりこの人口減少、そして過疎化に悩む紀南地方全体の願いであると思うんです。町長も当然同じ思いであると思うんですけども。ですから、総論は、皆さん賛成かと思うんです。しかし、町はリスクを懸念して難色を示すとあるんですけども、これは実際そうなんですか。町長としてもやはり当然責任がありますし、私は、手続上こういうふうな問題がありますよと、一応町の立場をお示しただけだと私は思うんですけども、その点、課長お願いします。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） これまでの当町の対応につきましては、今御説明させていただいております、リスクを懸念して難色を示した事実はございません。

なお、当該記事につきましては、事実とは異なる旨を新聞社に申入れいたしております。

それと、手続上、土地貸与の条件といたしましてお示ししました内容につきましては、本町が所有するグリーンピア南紀跡地を活用されるためには、本町の所有地はほとんどが山林でございますので、立木の伐採や造成などを伴う工事を実施する際には、周辺環境に与える影響などを関係者の方々に説明を行っていただくとともに御了承いただく必要があることや、またホ

テル棟につきましては、他自治体との共有となっておりますので、共同所有する自治体にも用地や建物の貸与に係る同意が必要であること、公用地の無償貸与となりますので、公平性を確保するためにも公募によることなどを回答させていただいた次第でございます。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） もう一点、旧グリーンピア南紀の大部分の山林は本町が持ってますけども、この大学の敷地となるのは、ほとんど隣町のところ、開けたところですね。そうだと思うんですけども、幾らうちが来てもらいたくても、大学の施設の予定地が、これ大体ですけども9対1ぐらいで、ひょっとしたら隣の町、本町はホテル棟ですね、ホテル棟の一部ということだと思うんですけども。それと、グリーンピア南紀のトンネルから海側の、今説明があった山林の部分ですね。ということは、本町がホテル棟を貸すかどうかぐらいの話だと思うんですけども、その点はどうかですか。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 財団のほうにおかれましては、その用地の利用計画であったり、それから建物の配置図などは示されてはございません。

それと、今議員おっしゃられましたホテル棟でございますけども、ホテル棟につきましては何らかの形で活用したい旨のお話をいただいております。ただ、ホテル棟は、他自治体との共有である旨を御説明しております。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 田辺市との共同キャンパスというんか、サテライトキャンパスという話でも誘致したいと思うんですけども、どちらかという隣町の話になってしまいますんで、どうしても旧グリーンピア南紀といいますと那智勝浦町というイメージがあるかと思えますけども、施設のある開けた部分ですよ、体育館とかある、多目的館とかがあるところは隣町の所有なんですよ。こういうことをもう少し住民の皆さんにも広く知ってもらい必要があると思うんですけども、12月24日のこの新聞記事ばかりで恐縮なんですけども、町長が大学設立に反対ではないと、このインタビューで答えられてますけども、この記事を見ると、町長が皆さんから何か勘違いをされているように思うんですが、その辺り、町長のお考えをお聞きします。

○議長（曾根和仁君） 町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） 12月24日に、私、大学設立は反対ではないというようなことで新聞に報道いただきました。この私立大学の話の経過につきましては、先ほど総務課長が申し上げたとおりでございます。

私は、高等教育機関、いわゆる大学ですね、この地域にはございません。そういった意味で、私どもの地域というのは、18歳を超えると全部が、ほとんどがと言っているんでしょうか、都会のほうの大学へ行ってしまう。それはもう皆さん方、共通の認識やと思います。そんな中では、やはりこの地域に高等教育機関が来るっていうのは、賛成というよりも大賛成でござ

ございます。もちろん地元の子供たちも選択肢が増えるということと、都会じゃなくて近くでいい大学があれば、いい大学というか、希望する大学があればそこへ行くわけですから、経済的にも助かると。私は、この大学は、やはり地元の子供たちだけではなくて、全国から来るような大学、あるいは全世界から来るような大学というか、高等教育機関であってほしいというふうに思います。そういった意味では、私は大賛成でございます。

そういった意味で、グリーンピアなんかもぜひ活用していただきたいということで、今回は私学の、私立の大学の話で来られまして、それは貸すことは可能ですとはっきり返事しているわけですから、それをどうも那智勝浦町は反対しているとか、町長が反対しているとか、割とそういう話を聞くことがありますので、この場ではっきり申し上げますけど、高等教育機関に来ていただくのは私は大賛成でございます。ただ、その個別の大学がどうこうという話ではなくて、この地域にはなくてはならない、ぜひ欲しいものだというふうに考えておりますので、新聞記事では、大学設立反対ではないっていう、そういう書きぶりになったのがちょっとあれなんですけど、そういったことでございます。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 町長という責任もあろうかと思いますが、大賛成ということでお話、思いを聞かせていただきました。

私は、新聞だけでは、逆に町だけ、那智勝浦町の話みたいと言われてますけども、これは隣町とのまたがるところですし、周辺の市町村とか、県の協力がなかったらできんと思っております。既に田辺の市長さんは、次回の市長選に向けて市内に大学を設立する構想ということで、その実現に向けて力を注ぐというふうな表明をされていますけども、私は共同キャンパスであっても、サテライトキャンパスであっても、できるだけ応援をしていきたい、町としてもできるだけ、できればぜひ来ていただきたいと、町の行政も町民の理解を得て、やれることはやっていただきたいと思っております。どうかよろしくお願いをいたします。

それでは次に、集落支援員と地域おこし協力隊についてお伺いをいたします。

先ほども質問がありましたけども、以前にも私も地域の活性化のために広く人材を活用すべきということで、移住・定住、これはもう町全体で進めていくべき話だという話を質問の中でさせていただきました。ほかの市町村も、そのような活動、活用をされておりまして、どちらかという色川が移住・定住のモデル地区みたいな形でありましたけども、今はほかの市町村にも広がっておりまして、最近ちょっと取り上げられることも少なくなったのかなという感じもします。観光資源とか世界遺産でもありますし、きらりと光ったまちづくりをぜひ実施していただいて、ほかからも魅力ある地、定住したい町ということになればありがたいと思っております。

また今回、当初予算の中で、空き家対策、防災対策で地域おこしの予算が組まれておりますけども、この空き家とか防災とかという形のもの、どういうことをしてもらおうのか、目的、期待していることについて、まずお伺いしたいと思います。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） お答えします。

来年度から新たに空き家対策をミッションとする地域おこし協力隊1名を募集する予定にしております。

目的としましては、職員や県の地域おこし協力隊、地域の方々と連携しながら、町なかの空き家掘り起こし調査などの業務を委託する予定です。そこに当たっては、実態調査、相談業務、県の空き家バンクへの登録の推進など、空き家の利活用を促して地域活性化を図っていくことを目的としております。また、防災・減災対策としまして、不良空き家の把握などを行っていく予定にしております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 減災という、防災、ちょっとこれは後でお聞きします。

那智地区とか勝浦地区につきましては、やはり本庁に近くて、役場とのつながりというのが直接的にはありますけども、それを補填する意味でも下里とか宇久井地区、集落支援員の配置、これはかねてから要望は私のほうでは質問等ではあるんですけども、それについてはどのようにお考えでしょうか、お伺いをいたします。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） お答えします。

これまで地域の方々やいろんな方々から意見、お話しする中で、人口減少による地域における課題についてお聞かせいただいております。当町としましても、地域おこし協力隊や集落支援員の導入という思いは持っておりますが、まずは導入に当たって受入れいただく地域の基盤整備や目的などについて十分協議をしながら検討してまいりたいと思います。

なお、今回の協力隊については、限定の地区という形ではなく、全町を対象として地域に入っていく予定にしております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 全町対象ですかね。私は、地域おこし協力隊よりも集落支援員のほうが、まず彼らを、地域おこし協力隊のメンバーを支える意味でも集落支援員を先に配置すべきだと思っております。下里地区においては、この各地区の区長さん方で昨年11月にこの件について話し合いを持ちました。県や町が積極的に進めている事業で、色川、太田の活動状況を見る中で、少子・高齢化、過疎化が進行しており、必要性はもう分かっていると。しかし、実際に事業するとすると、どうしたらいいのか、まだまだこれ勉強する必要があるよねということで、必要があるというふうな意見が出ておりました。

この下里地区におきましても、地域の課題、まちづくり活動とか、その拠点づくりですね、耕作放棄地の保全、そして集落点検、それに付随してきますけども、空き家対策、さらには移住・定住の促進、様々な課題があります。そんな中でこの空き家という話が出てきて、私はち

よっと私の勘違いでしょうか、津波対策沿岸部分みたいな話を聞いたもんですから、これは高齢者、下里であっても沿岸部分、高齢者の方も多くて、集落点検という意味で、まず避難するのが困難な方とか、要支援者の方、そういう把握をしなければならない。これは対策を急がれているなど思っております。これはどちらかという、この話ですね、今回の地域おこし協力隊の予算なんですけども、どちらかという、防災対策室のこの発信の話ではなかったのかどうか、そういう関係はないのか、その辺り、お伺いをいたします。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） お答えします。

今回の募集につきましては、当観光企画課で進めておりますけれども、空き家については、やはり全庁的な課題でありますので、防災対策室、また関係各課と連携しながら業務を進めてまいりたいと思います。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 観光企画課のほうの関係が主だということですね。高齢化と過疎化が急速に進んでおまして、各地区の状況というのが物すごく変わっています。防災面についても地域の中でいろいろとやっているんですけども、やっぱり区長さん、区の役員さんだけでは十分な手も行き届かない。各地区の手助けをしてくれる人、そして各地区の連絡調整をしていただけるような人、事業をやっぱり引っ張ってくれるような人が集落支援員さんで欲しいんですね。手始めに、下里、宇久井地域においても防災の観点からも集落支援員制度の説明会、まずこれをやってもらいたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 集落支援員制度、協力隊の制度なんかも含むんですけども、これまでも区長連合会の総会において制度について説明する機会をいただけてきました。今後、各地区でも集落支援員制度の勉強会などへの参加依頼などいただきましたら、集落支援員制度の説明、現在の活動をされている太田、色川での活動事例などを御紹介させていただきながら対応させていただきたいと思います。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） まちづくりは、もう行政の力だけではできませんので、地域の協力を得るためにも、地域の人材育成に力を入れるべきでありまして、地域の住民の支援、各地区の区長さん、そして役員さんへのサポート、相談体制が必要となってきます。今、先ほど10番議員さんも、津本議員さんもおっしゃられておりましたが、それを移住・定住を町のテーマとプロジェクトとしていくと、これは橋本市でやられております、ちょうどこの地域プロジェクトマネージャーという制度があるんですけども、この橋本市でやられているんですけども、この話につながるんじゃないかと思うんです。この地域プロジェクトマネージャーについて、これはどのような事業なんですか、まず説明をお願いいたします。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） お答えします。

地域の活性化やDXなど、重要プロジェクトを担う人材を地域に呼び込むための支援策として、総務省が令和3年度に創設した制度であります。地域活性化に向けたプロジェクトを実施する際には、外部専門人材、地域住民、行政、民間などが連携し、チームとなって取り組むことが不可欠であり、立場も様々な関係者の橋渡しを行いつつ進める必要があります。そのプロジェクトの進行をマネジメントするような、橋渡しする人材が地域プロジェクトマネージャーであります。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 専門的な知識や経験のある人材、新しい制度だと思うんですけども、市町村が実施する重要なプロジェクト、現場における責任者としてのプロジェクトチームを運営して、関係者の調整を行うブリッジ人材とありますので、大きなプロジェクトの話だと思うんですね。ちょっと話が少し大きくなってしまいましたけども、集落支援員、地域おこし協力隊の配置を町全体を通して、各地区の実情を再検討していただきたいと思います。地域には、やっぱり地域それぞれの課題があって、状況も異なっております。先ほども色川の事例が出ておりましたけども、やはり地域に合わせて色川、太田、そして下里、宇久井、それぞれ地域の実情に合わせた集落支援員、地域おこし協力隊の配置、さらなる事業の充実を要望いたします。どうかよろしく願いいたします。

最後に、道の駅なちについてお伺いをいたします。

先ほども質問がありましたけども、私も昨年、議会の委員会のほうで視察をさせていただきました岐阜県の揖斐川町、西国三十三所の谷汲山があって、合併をした町でありました。道の駅を地域振興のために、町も議会もでしょう、そして地元も一緒になって応援して頑張っている。実際、議会のほうも応援しているんだというお話を熱心に聞いてまいりました。

この指定管理料も相当な金額、これ3つの道の駅があるんですけども、1つは1,000万円ぐらい、1つは2,300万円ぐらい、指定管理料を支払っているんです。やはり道の駅というのは、公園とかキャンプ地みたいなものを併設していたり、実際、入浴施設ですね、ちょっと規模が大きかったですけども、入浴施設があったりして、その指定管理料というのは一概には言えないと思うんですが、担当の商工観光の課長さん、都市部からの交流人口を増やす、道の駅を通じて町に来てもらうことがありがたいということで、皆さん本当にやる気を感じる、大変いい視察となりました。

また同時に、姉妹都市の上松町さんのほうも行かせてもらったんですけども、木曾路の宿場町のにぎわいを再生するために、補助金を活用して寝覚の床のところですかね、補助金を活用して道の駅構想があるんだと。ここも観光担当の課長から説明を受けさせていただきました。

一方、本町においては、この道の駅の問題、昨年と一年変わってないんじゃないかなと、また同じことをやっているように思います。担当課がなぜか農林水産課で、観光面での道の駅の

存在意義、そして観光振興とか交流施設であることを全く評価をしていないんですね。この1年間、この道の駅の農林のほうでやった説明会でもいろんな意見を、皆さんいろいろ道の駅を応援しようじゃないかという方々が来られてました。そういう方々の意見を聞いたのに、この1年間、担当課は売上げを上げようとか、入浴客を増やそうとか、自分たちで何ら努力をされてないような気がするんです。

また、先日の委員会でコンサル委託の結果報告を聞いたんですけども、町当局が自分たちでもうやるつもりがないというのは、本当によく分かりました。失礼ですけども、このような丹敷の湯を閉めて人件費を削減すると、こういうふうな計画の理由づけにまでコンサルに任せて、この先、うちの道の駅、大丈夫なんかなと、私はちょっと心配しております。コンサルは、クライアントの言うとおりに動いて、結果をつくってきます。今日は、まずこのコンサル案について質問をさせてもらいたいと思います。

コンサルから、これは何部提出されているんでしょうか。まず、お伺いします。

議会のほうはもらって、委員会で説明を受けたんですけども、これ皆さん見られているんでしょうか。何部出されてますか、お伺いします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） お答えします。

最終報告書の部数ということでございますが、データでの資料報告となっております。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） データだけですか、これ。今の時代ですからね、はい。

普通でもコンサル結果をつくって、何部か印刷して皆さんに説明してということになると思うんですけども。これは興味のある方というのは見られるんでしょうか。当局の皆さんは、議員はもう見たんですけども、これ何人の方が見られてる。ほか、誰か見られてますか。それをお伺いします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） お答えします。

もちろん町長、副町長には同じものを焼き増ししておりますし、観光企画課長と共有しているところでございます。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 議員と町長、副町長、観光企画課長、担当課長、ちょっとこれでいいかなという気はするんです。これは興味のある方というのは見ることができるんでしょうか、お伺いします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） お答えします。

一般の方が拝見したいというところでございますが、今回、パートナーズさんからの成果物

として、公文書には当たらないかと思っております。そういうところであれば、当課のほうに来ていただいて、内容の説明等は可能かと思えます。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） パートナーズさんの成果物ということで、一般の方も見ることはできるということですね。はい、ありがとうございます。

このコンサルの提案なんですけども、この提案の部分は、これは2つの前提から成っていると思うんですよね。1つは、農産物売場を交流センターのほうへ移して、今以上の売上げを上げることができる。2つ目が、これを受けてくれる指定管理があるというふうなことです。この2つの前提とも、私はちょっとこれ難しいんじゃないかな、簡単じゃないんじゃないかなと思ってます。

そもそもちょっと無理な計画を、道の駅なちの大きな特色である丹敷の湯まで閉めて、これさらに悪くなっていくんじゃないかと私はちょっと心配してます。コンサルは、潜在的な需要があるかどうか市場調査をただけで、可能性を算出しただけなんですよね。

まず、これ確認したいのが、元の場所、今の情報センターのあるところなんですけども、以前の農産物売場の売上げって、そこへ戻すんですけども、どれぐらいありましたか。ちょっと御存じないですか。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 以前というのは、統合する前の売上げですか。

すいません、ちょっと資料等ございません。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 唐突に突いて申し訳なかったんですけど、道の駅のをするときに、場所のいいところへ農産物売場を移転するというので、それほど売上げは少なかった、今のほうがすごい多いんじゃないかなと思うんですよね。現在のところのその農産物売場の面積ですよ、それはどれぐらいある。分からなんだらあれなんですけども。情報センターの面積ですよ、今ある、前に農産物売場に使ってた、そこはどれぐらいあるんか、ちょっと分かったらお願いします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 大変すいません、細かい数字は今手持ちはないんですが、PTでも検証した結果は、十分統合してでも収まるというような、はい、報告だと思います。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 唐突に聞いて、またこれも申し訳なかったです。

PTでも、十分収まるという話なんですけども、移転したときの経過とか、私も見ているんですけども、広がってよかったねっていうふうな印象で、どっちかというとなんか小さくなるんですよ、場所は。あれあんだけのコンビニみたいところで売場があったんですけど

も、今度は小さくなる、農産物。そこで売上げを上げるというのは、幾ら努力すると言っても、今のところよりも、今のところは道からよく見えて、立地もよく、便利だと思うんです。よく弁当を買いに来るとかっていう話を聞きましたけども。今回、それで売上げが上がるのかどうか、そういう検討をされているかどうか、お伺いをいたします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） すいません、少し先ほどの質問に戻るんですが、場所については、今現在の交流センターの入ったスペース、フロアですね、フロアも使って今ある直売所をして統合するというような形でスペースは確保できるということでございます。

売上げの検討ということでございますが、こちらについては報告書を基に説明させていただければと思います。

報告書の中では、令和5年度の売上高を、レジ通過ですね、通過額を直売物産で6,900万円ということで実績が出ております。それを今後どういうふうな形で売上げを伸ばすかということでございますが、単純に場所を移動するだけでは無理です。それは無理だと思います。方法としましては、報告書にもあったように、ポップ、要は陳列を変えたり、ゾーニングを変えたり、そしてまた宅配の業者に入っていていただいて宅配をしたり、そしてまた、すいません、ちょっと記憶が飛びました。プライベート商品、PVブランドというプライベート商品の開発、そしてまた委託販売だけではなく、直接仕入れて販売すると、いろんな施策を打った中で、今シミュレーションが出ているということでございます。

先ほど申し上げましたように、令和5年度のレジ通過で6,900万円というところなんですが、そういういろんな改善施策を施した結果では、現在のシミュレーションでは9,800万円の売上げが出るだろうと。さらに、飲食を併設すると、飲食にお客さんが見えるんで、その分を相乗効果と見込んで1億700万円、それぞれ2,900万円、あと3,800万円の増ということで見込んでいるところでございます。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 今の入ったとこのフロアのところですよね。そこも含めて売場というんですけど、今もここ売場で使っているんですよね。ですから、面積的には変わらないので。いろんなこういう施策をコンサルのほうで膨らませてくれて書いて、ポップを使ったりとか、プライベート商品とか言っているんですけども、今のところで広いところでやったほうが、より効果は上がりますよね。どこでやっても同じですよね、これは。今より狭くなるんだったら、これできないという話になるんですけども、これ今のところでやっても、この策はできるんじゃないかと思うんです。

やっぱりちょっと気になるのは、売上げがこれ上がるのかなと。コンサルじゃなしに、まず自分たちで生の声、これコンサルは市場調査とか、こういう手法はあるんでっていう話で試算してますけども、まず実際ここでやったら上がるかという話を、現場の職員とか、その利用者の方とか、聞いてみたらどうですかね。これは議員はちょっと難しいんじゃないかと思うんですけども。それ今のところでこの施策をしたほうがええんじゃないかと思うんですよね。ま

ず、コンサルも現場の声を聞く必要があると思うんですけども、コンサルさんは現場の声を聞いてもらったのでしょうか。その点、お伺いします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） お答えします。

現場の声ということは、従業員の声ということですか。はい。コンサルは直接従業員からはヒアリング等はしてないとは思いますが、実際、足を運んで現場を確認しているということは聞いております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 現場の声を聞いてないんですか。そういうやり方と違うのかもしれませんけど。前に一般質問でちょっと聞いたんですけども、一般質問ですね、はい。道の駅でやってくれた説明会ですよ、あの担当課のほうでやってくれた、そのときの意見はコンサルのほうへ届いているのでしょうか。ちょっとお伺いします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 以前にもお答えしましたように、報告会の意見については、こちらから報告しているところです。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） この説明会が終わったのは大体11月だったんですけども、この結果の最終報告は11月25日なんですよ。その意見というのは、まず最初に聞くべき話であって、もうこれほとんどできた段階で意見を届けても、実際これ無理ですよ。どういう意見があったのか、コンサルさんは見てくれてないんじゃないかと思うんですよ。

今、挙げました2つ目のこの指定管理を受けてくるところがあるのかなんですけども、当然、最終は公募になるんですけども、取りあえずはですね、取りあえず町内外の業者さんに先に、このコンサル委託へかける前にしておくべきことだと思うんですよ。今になって、議員からの指摘があって、聞いてくれてるそうなんですけども、私はこの前提が両方も、これ売上げのほうも指定管理も難しいと思っております。今回の道の駅パートナーズのコンサル委託は無駄になってしまったんじゃないかなと思うんですけども、町民の皆さんはどう思われるか、また私自身、聞いてみたいと思っております。

3月議会の会議録で、これは3月議会の会議録なんですけども、これ課長の答弁ですけども、356ページに、コンサル予算の議案説明の中で、今回の委託につきましては、実績と豊富な知見、データを持って道の駅の再生に取り組んでいる団体に、調査分析から計画の策定まで行っていただくものでありますというふうにして説明をいただきました。しかしながら、残念ながらこれは最初からこの結論ありきの話で、予算審議で600万円の無駄遣いになるんじゃないかということを議会のほうでも指摘されておりました。私はちょっと残念で、そのとおりになってしまったんじゃないかなと思います。

先日の1月27日の委員会で、課長はこのコンサル結果を基にしまして、いきなり町の方針

は、シナリオ3で温泉を廃止して、産直を移転すると、物販と軽飲食を強化すると言われました。これはPTの報告、プロジェクトチームですか、報告、丹敷の湯を閉めて人件費を削減するという、この考えにのっとっているといいますか、全く同じなんですね、このシナリオ3というのは。これ何が変わったのかなと思うんですよね。この600万円のコンサルの成果は、そうでしょう、私たちが言ったとおりでしょと、ほら、言ったとおりでしょと聞いたかっただけなのかなと思うんですよね。補助金もなしに、一般財源で600万円出して、これコンサルする必要があったんでしょうか。ちょっと私疑問なんですけども。これほとんどの議員さんが今そう思っていると思うんですよね。単にこの丹敷の湯を閉鎖する理由づけさえも、権威のある誰かにやってもらわなければならないということなんじゃないかなと思います。

昨年の3月に、この600万円のコンサル委託が予算計上されたんですけども、6対4で、最初は業者に任せるべきでなく、まず役場でやってみるべきじゃないかということで、これ一度は委託料が認められなかった。その後、6月の議会で早期に方向性を出すという理由で可決がされました。しかし、今回のコンサルの進め方、経緯や成果物を見ても、これまでの議会の説明とは随分違うんじゃないかと思うところが多々あります。

1つは、3月の議会審議のときに、この58ページにあるんですけども、会議録を持っていないと思うんですが、2番議員の吾妻さんの質問のときに課長の説明で、住民や関係者とのヒアリング調査の前、そしてその調査の後、そして結果の報告の3回は、これは必要かと考えていますと答えています。しかし、このコンサルによるヒアリングですよ、意見聴取はこれ一回もされてませんね。代わりと言ったらなんですけど、農林水産課のほうがSNSで発信して、何回かに分けて説明会と称して、していただいていますけども、この道の駅の赤字の説明ばかりで、説明会は皆さんのお話を聞きます、意見を聞きますとおっしゃってくれたんですけども、しかしながらこの観光振興とか、皆さんのこの提案、意見ですよ、これについては担当が違うと言われまして、全く取り上げてもらえない。だってそうですね、コンサルにも渡したんですけども、そういう状況ですよ。また、コンサルの方とか、町の幹部の方とお話をさせていただく機会もなかった。いろんなこれ意見があったんですけども、全くこれは取り上げられてないんですよ、これ。

2つ目は、3月の議会、この同じなんですけども、6月議会の81ページにもはっきりと書かれてあるんですが、報告書が出れば、住民の皆さんや利用者、地元にも説明の場を設けていきたい。こちらのほうの82ページでは、専門家に議論の材料をそろえていただいて、納得のあるような報告会を重ねていきたいと言われていたんですよ。私は委員会で課長に聞いたんですけども、いつやるんですかというふうなこと聞いたら、はっきりとやらないとおっしゃってられました。結局、これヒアリングも一回もせずに、そしてこの報告会もやらない。これ2つの約束、これはコンサル委託を実のあるものにするために、この予算を可決する条件のように議員のほうが言っていたことなんです。そのために課長は、住民の皆さんに納得できるように報告会をするとおっしゃっていたのに、この会議録にちゃんとこれ載っているんです、ここに。これは行政当局、町長の信頼をなくしてしまうことになりますので、まずどうするかを

表明する前に、まず決定する前に住民の皆さん、そして利用者、地元にもコンサルの結果のま
ず説明ですよ、この説明をするべきだと思うんですけども、これ議会で約束したことですか
ら、いつやるんでしょうか、お答え願います。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 報告会の説明については、前回の議会でも答弁させていただいた
ように、ホームページに替えて報告会については結果等、アンケートの結果等を替えさせてい
ただきますということでお答えしたと思います。

報告書の説明会ということです。この報告書についての説明会、はい。

こちらについては、まずやはり今議員の皆さんと議論を交わしているところでございます
が、方向性が出れば、地元の方に報告は必要なのかなというふうには考えております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） これやっぱりちょっと話が違いますよね。報告書が出れば住民の皆さんや
利用者、地元にも説明の場を設けていきたい。専門家に議論の材料をそろえていただいて、納
得のあるような報告会を重ねていきたい。それがホームページに替えてとか、地元には説明は
方向性を決めてみたいな話、ちょっと大丈夫ですか。町長の信頼を失うようなことになってま
せんか。課長の答弁がですよ。もう少しここ、議会での答弁に責任を持っていただかないと、
これ議員のほうもちょっと不信感のほうに立ってしまうように思うんですけども。

次に、コンサルの検討結果なんですけども、これまず前提がおかしいよという話をさきにさ
せていただきました。これが妥当なものなのかですね、まず。これは私なりの考えですので、
私の考えだということでしたら了解していただきたいんですけども、この道の駅のコンサルのエキ
スパートとして道の駅パートナーズ、これを課長から前に委員会で説明を受けました。道の駅を
こういう方々の紹介を、こう腕組みした自信ありそうな話で、道の駅を地域の原動力にする
ということで、これを地域にお金をもたらすだけでなく、地域の人たちが活躍する場になるよ
うにということで、このような説明を受けました。この大きなところの成功事例も幾つか紹介し
ていただきました。

しかし、これ幾らこの道の駅のコンサルの第一人者であっても、基になるもの、依頼者がや
る気がなければ、出てくるもの、アウトプット、出力ですよ、それが中身の無い、具体性の
ないものになってしまうんですね。これ町が先に方針を決めて、例えばですけども、うちの道
の駅の特徴のある丹敷の湯を生かして地域の振興と交流の場になるように、今おっしゃって
いました物産の品ぞろえや陳列も考えて、お客さんが滞留するように人の動線やゾーニングを再
検討したいんやと、積極的な案を出してほしいんだと、何億円かけてやりますと、やりますか
らというふうな積極的な町の方針を出していただいていると、結果は違っていたんじゃないか
なと思うんです。町の方針を出して、コンサルに具体的に実施できるように、それで実施でき
るような形で計画をつくってもらったと、何人かの議員が申し上げました。

これ2番議員から吾妻議員から、出てきた案が1億円、2億円やったらどうするんやという

ふうに聞いたときに、ちょうど明確な答弁がなかった。ということは、事業をあまり考えてないんですね。具体的な方針とか意思とか、そういうやるつもりがなく、単に丹敷の湯を閉鎖して、道の駅を縮小すると、この報告会の中の81ページに、皆さん見られてないと思うんですけども、10番議員がおっしゃってましたけども、リストラとあるんですけども、この赤字解消のために、職員をリストラということなんですかね。そんなことしか頭の中になんないんじゃないかなと思うんです。それではコンサルから出てくる結果は、これ600万円という結果が見えておりまして、これ600万円かける必要があったんかなと。600万円でこれタイルの修理を何回もできるんですね、215万円でやれると。今、道の駅の入浴施設を止めてますけども、すぐにできる話ですね、これ。

次に、内容についてなんですけども、今回のコンサル結果の市場調査は、分析の手法があって、こういうものなのかなと、僕自身はこれはこんなもんかなと、想像どおりかなと思います。これは実際に売上げにつなげることができるのか。それなんですけども、その部分はコンサルと一緒にやっていく。並走支援のように一緒にやっていくと。もうそのほうが大切で、これが指定管理者であっても、町であっても、これやるのが現実には難しいんですね。そこをやっぱりコンサルに手助けをして支援をしてもらって一緒にやってもらいたい。

この市場調査の分も半分は調査の部分ですよ、これほとんど半分は。その後書いてある改善策、先ほど陳列がどうかおっしゃっていただいたんですけども、その部分はコンサルの得意とするところなんです。ここの部分をいっぱい膨らませていろいろ書いていただいているんですけども、地域を調査して需要を計算する、もういつものやり方で、私、ここの部分というのは200万円ぐらいの価値しかないような気がするんです。これ自体200万円、このほとんどがですね。

報告書の81ページ、運営体制の提案、想定されるケースというのがここへ初めて出てくるんですけど、その前半部分というのは200万円ぐらいしか価値がないと思います。ここから4ページ、ここからのどうするか、ケースを書いているのは4ページしかないんです。これ1枚100万円ですか、そうすると、全体が600万円やったら。これ4ページのために、この600万円を使っているような私は気がするんです。

この部分が、先ほど言ったように経営改善の実施に当たっての支援、ここをやらしてもらえないといけない。600万円をここへ使って、この400万円、600万円をこの4ページにちゃんとつくってほしかったんですよ。それが今まで何人かの議員がおっしゃっていた町の方針を先に出してと言っていたのはこれなんです、ここの話なんです。考えもなく丸投げをして、したんやったらもう何も出てこんのんです、ここへ。PTの報告書を渡して、この丹敷の湯を閉鎖して、赤字を縮小したいと、その資料をつくってくれと、そうやって依頼したんじゃないかなと思うんですけども、これPTの資料というのは渡しましたか、お伺いします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） お答えします。

PTの資料、渡しております。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） ほかに資料は何か渡しましたか。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 資料のほうですが、過去5年分の決算資料、同じく5年分の月別利用客推移、同じく5年分の売上高推移、そしてPOSレジシステムのデータ、平面図、敷地の構図、駐車場の配置図、そしてJR那智駅の乗降客数、バス停利用者数、こちらについては町営バスの乗降客数のみです。あと、観光客の入り込み客数等になっております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 赤字の話ですよ、赤字がこれぐらいありますみたいな話の数字やと思うんですけど、普通だったら、本町の観光の基本計画とか、そしてこの道の駅の基になった歴史街道整備プランの構想とか、そういうもの、長計とか、そういうものも出すべきだと思うんです。これではやっぱり赤字の解消、人件費の削減、役場のそのPTの報告書に添ってつくられたものであって、やっぱり答えありきなんですよ。渡したのがそれであったら、そのようなアウトプット、出力しか出てこないと思うんです。何度も申し上げてますけども、コンサルは依頼者、クライアントの思いどおりにいろんな引き出しを使って、データを使ってプランをつくってくる。しかし、実施できるかどうかは、クライアント次第なんです。これはコンサルがよく言っていることなんです。実際、依頼者にやる気があるのかどうか。この今回の600万円の委託は、コンサル業者さんにちょっとばかにされたんじゃないのかなと思うんですけども。パートナーズのこの1件の定価なのかもしれませんけども、これ600万円、これはちょっと高過ぎると思うんです。そう思われませんか。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） お答えします。

今回の委託料、予算については600万円でしたが、契約については570万円でございます。

少し議員のほうから過激な発言があったかと思うんですが、ばかにされているということということでございますが、その辺は町としては一切思っていないところです。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 失礼しました、申し訳ございません。そういうことはないということです。600万円、実質は570万円ということですね、はい。

私が自分のお金であれば、投資するにしても600万円はよう払いません。私だったら、これは200万円で、調査だけでもいい。肝腎のところ、やってほしいところ、4ページしかないんで、これだったら私でもつくれるのかなと思います。これ自分のお金だったら、ちょっとよう出しませんね。

仕様書ですね、これ。この依頼書、これ依頼どおりできているのかどうか、ちょっと確認するために仕様書というのがあるんですかね。その点、お聞きします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 契約の段階では仕様書をつけて契約しているところでございます。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） これはどんな仕様書ですか。

入札をかける段階で仕様書をきっちりこしらえて、各社に渡して、それで入札にかけるんですけども、これ随意契約で1社ですよ。どういう仕様書が出されたのか、ちょっと見せていただきたいんですけども、お持ちですか。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 今回は随意契約とさせていただきます、仕様書については業務内容としましては、市場規模の調査、年間利用者数の分析、ポテンシャル売上高の算定、各施設規模の算定、収支シミュレーション、また最適運営体制の提案、そして最後にコンテンツ案及び道の駅リニューアルのプロセスパターンの提案、その他としております。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 仕様書をこうやってつくりますというふうな、相手側からの、こういう内容でつくりますというのは契約書であって、こちらからこういうものをしてほしいというふうな仕様じゃないと思うんです。その話はちょっと私も委員会のほうで、仕様書はこうやってつくりますって聞いてはいたんですけども。そうじゃなくて、こういうことしてほしいという仕様書が必要だったんじゃないかなと思うんです。

予算審議のときからこの道の駅パートナーズという名前が出てきてますんで、もうここと契約しますというふうな形のもんなんですよ。随意契約だけど、こういう条件といいますか、こういう理由があればいいんだという説明もしていただきましたけども、ちょっとこれ、この契約自身、大丈夫かなと。いいのができていればいいんですけども、私はこれはちょっと、私の考えです、私見ですけども、ちょっとこれ大丈夫かなと。課長、これ大丈夫ですか、この結果報告がこういう内容で。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） こちらについては、PTの議論の後、なかなか数値化できるものはありませんでした。そんな中で、今回の業務についてはきっちり数値化していただいておりますし、マクロ、ミクロ双方からの見地からの検証もいただいております。意義のある報告書だと考えております。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） ありがとうございます。数値化したということで、はい。ぜひこれ皆さんに見てもらって、これ活用しないと600万円ですから、活用していただきたいと思います。

そして、もう一つの課題なんですけども、今回の委託料で指定管理の方法をきっちりと詰めていこうと言われました。しかし、コンサルの報告書の中では、ここの4ページのところの84ページに、これ1枚、これも1枚だけなんです。課長はたしかいろんな業者を紹介してもらおうとおっしゃってましたけども、ここの1枚を見ていると、大手は難しいので地元業者に打診

を行うことが望ましいって書いてあるんです。600万円使って、これですか。これ仕様書の一つの項目に入ってますよね。このページだけ、これだったら、ちょっと東議員がこの話を言うてましたけども、これまで議員の多くが、受けてくれそうなところを先に聞いてみたらどういいう状況なんか、サウンディングみたいな大げさな話じゃないんですけども、状況を聞いてみたほうがええんちゃうかって言いましたよね、これ。その結果がこの1ページ、これは税金の無駄遣いじゃないですか。これ結果は分かっちゃったよね、課長ね、きっと。実際はそういう業者さんも探してくれるのかなと私は思ってたんです。そういうことまでコンサルのほうはやっぱりいろんなところも知ってるでしょうし、そう思っていたんですけども、これ地元でまず聞いてみたらって、これちょっと仕様書の打合せが十分じゃなくて、この結果はこういうことであれば、ちょっとこれ役場が悪いんですかね、コンサルが悪いんでしょうか。議会の答弁でされたことが、できてないんですよ。

指定管理の公募するのに当たっての条件の仕様書をつくるということだったですね。357ページにありますけども、ここに課長の答弁があるんですけども。この2行目の、このサウンディングをやっている、3行目ですか、3行目のサウンディングを今回ちょうど今やっているとことだと思ってるんですけども、その後の以降の4行目、5行目に書いてあること、サウンディング調査や公募を行う際の条件面での注意点で、指定管理を将来的に縮減していくための契約上の条件設定などあります。今回の支援業務で道の駅の現状と課題の分析、そして今後の運営まで提案をさせていただくものであります。この4行目、5行目の話ですよ。最終的に指定管理を行うところまでコンサルでやってもらおうと。そういう最終的な指定管理の応募する、そういう仕様書はできてあるんでしょうか。その点、お伺いします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 指定管理の公募の際の仕様書については、現状まだ用意できておりません。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 今、サウンディングの状態ですから、そういうことかなと思うんですけども。これ600万円でやってくれるんですか。もうこれ11月25日に出て、契約期間は3月の末ですか。これ繰越すべき事業じゃないですか。この仕様書に書かれてあることができてないんですから。実際、コンサルさんに僕らが期待しているのは、この内容もそうなんですけども、これでいいかどうか、じゃあ実際やっていけるのかどうか、実際やってもらう提案も手助けしてもらいながら並走支援でやっつかんとあかんと思うんです。これでもう終わりですよ、3月末で契約期間。できてないのに、これは繰越すべき事業じゃないですか。その点、お伺いします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 契約としては、3月31日ということになっております。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 次の報告書の81ページなんです、すいません。シナリオ81ページにこの4

ページのところ、81ページにシナリオ3を行ったとして、産直売場の移転、情報センターの移転費用ですね、それから物販売場の統合とか、一連の交流センターの改修の費用、これPTの
人件費削減と縮小の案にこれが幾らかかるのか。これ試算できてませんでしたよね。例えば1
億円弱とか数千万円とか、かかると思うんです。それは1億円、2億円かかるんかと言われた
ときにも、明快なお答えもなかったですけど、こういう話とか、工事のスケジュール案、さら
には産直売場の活用をどうするのか、そして2階の温泉施設の利活用ですね、これはふるさと
納税の事務所みたいなことを言われていましたけども、それじゃ駄目ですよ。最初は飲食に
利用するっていうふうなことで検討できやんかみたいな話も議会のほうでは聞いておりました。
そういう提案でしたね。それらも含めて、さらにこのバス停も変えなんたら、あそこは入
り口にありませんよね。交流センターの玄関窓口の変更、道の駅の全体の人の流れ、動線、も
う一回これを考えないと、いじるとなったらそういうことを考えないと、そういうことが必要
だと思うんですよ。それらの計画が実施できるようにして、そして指定管理の公募ができる
ように、そんな形にして報告書を持ってきてもらう必要があると思うんですけども。そうでな
ければ、そのときに賛成された600万円、570万円ですけども、600万円に賛成された議員、町
民もこれは無駄になったと思うと思うんです。私、これは600万円はちょっと納得がいかない
んです。

この最後なんですけども、私、この最後のページを見てがっかりしました。私もコンサルの
方とは何回か仕事をしたことはありますけど、これは今まで見たことがない、異質なんです
ね、このページだけ。これ皆さん、参考という形であるんですけども、これ誰、コンサルがつ
けたとは考えられんのですけども、これは誰か、課長か誰かが指示したんでしょうか。その
点、お伺いしたいと思います。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 今回の報告書については、担当課から脚色したり誘導するような
報告書ではございません。最後のページについてもパートナーズから上がってきた報告書でご
ざいます。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 那智駅交流センターの設置及び管理条例の那智駅交流センターは何でつく
られたか、その目的、ちょっと言っただけませんか。お伺いします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 那智駅交流センターについては、平成7年頃から検討が開始、始
まっております。理由としましては、無人駅になった那智駅の浜ノ宮地区の再開発というところ
で始まったというところになっております。あの駅舎についても残しておきたい駅舎百選に
も選ばれておりますし、そういうことを景観を生かしながら駅前広場の整備、駐輪場、駐車場
の、そしてまたトイレの整備などの構想を練りまして、平成10年度に那智駅交流センターが完
成しております。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） すいません、質問がまずかったですかね。設置管理条例ですね、条例の中にある目的をちょっと言っていたきたい。交流センターって、道の駅っていうのは何の目的でつくられたかですね。

私は、最後のページ、何でこれ異質かっていうと、一部の人たちが自分たちのために利用する温泉施設は、自分たちで支払ってねって書いてあるんです、最後に。これだけ、普通コンサルはこんなことを書いてこんですよ。それがちょっと私疑問に思ったんです。

まず、目的、設置条例の目的をお願いします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 大変申し訳ございません。ちょっと設置条例、手元でございますので、申し訳ございません。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） すいません、唐突な質問で申し訳ありません。

設置条例の目的なんですけども、地域の、浜ノ宮のですね、環境整備を促進し、都市住民と地域の交流拡大を図り、農産物、観光産業の振興に資するための交流センター、その丹敷の湯は入浴施設なんです。丹敷の湯は、単に利用者だけの入浴施設じゃないんです。利用者だけに絞って、こういうふうなこの1ページを作って入れたんだと思うんですけども、単純にそうじゃないんですよ。地域の環境整備なんかもあるし、交流の場であるというふうなことをきっちり書かれてあるんです。私は実際にお風呂に入って、横浜から来たという方と話したんですけども、熊野古道を歩いて、今お風呂入っているとこなんやと、横浜から来たんやけど、勝浦へ何回も来ていると。勝浦はいいとこやねっていうふうな話を実際にやっぱりしているんです。だから、そういう交流を大切にしよう、道の駅の、最初に揖斐川の例も申し上げたんですけども、そういうところなんですよ、実際。地域の交流とか交流促進の目的のための入浴施設である道の駅も含めて、有効にこれを活用していかなあかんとこなんですよ。交流センターの設置条例をもう一度御覧いただきたいと思います。

しかも丹敷の湯なんですけども、10番の津本議員さんが先ほどおっしゃられたように、町長が75歳以上の方、障害のある方に対して助成券を出している、利用してる福祉的な意味合いも持つ、この町営の施設なんですよ、唯一の。唯一の町営の入浴施設なんですよ。出している施設ですよ、福祉課長、いかがですか、そうですよね。お伺いします。

○議長（曾根和仁君） 福祉課長仲君。

○福祉課長（仲紀彦君） 先ほど10番議員のときに御質問いただきまして、入浴助成券の件、お話しさせていただきました。これは先ほど目的を説明させていただきましたけども、町民の健康増進ということで、町内の施設を利用いただくための健康増進のための助成券というふうに考えております。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 福祉課の施設ではないですけども、福祉的な意味合いの助成は町長がされているということです。ここの施設も対象にはなっているということかと思えます。助成券、これ200円の10枚つづりなんですけども、この丹敷の湯、これどれぐらいの利用がありますか。この助成金を使って。御存じでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 確かな数字ではございませんが、750枚ほど利用があったかと思えます。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） 実際は結構利用されているということですね。月にすると、30人とか50人とか、多い日で、延べ数であれなんですけども、何かそれぐらいの数字が入っているというふうな話も聞いたんですけど、ちょっと多いような気もするんですが、結構使われている、実際使われているということですね。

民間だったら、赤字だから閉めるでいいんですけども、町営だったらそういうわけにはいきませんよね、これ。実際、これはいつになったら開けるんだというふうな問合せがあると思うんですけども、その方たちに対する説明が、このようなこの最後のページのコンサルのこれでいいんでしょうか。受益者、利用者負担してもらうのが好ましいというて。町はいつからこういう話を当たり前にするようになったのかなと思うんですけども、その点、これ出していいんですか。課長、どうでしょうか、説明して。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 報告書の最後のページ、地方公共団体における受益者負担の考え方ということで、福井県の事例であったり、神奈川県事例であったりということで掲載しております。あくまでも自治体によってはこういう考え方を持って、例えば財政運営にも反映しているというような、そういう方向で説明をパートナーズさんからは受けております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 3番城本君。

○3番（城本和男君） こういう考え方をされるんやったら、町はちょっと心配なんですけども。

私は、今回のコンサル委託、専門家に委託して、今後の利活用を考えるということでありましたけども、丹敷の湯を閉鎖して規模を縮小すると。前向きな新しい話が全然なかったんです。大変残念であります。コンサルのこの委託について、再度具体的の方針を検討して、私は本来、やり直すべきなんじゃないかなと思っております。

以上で私の一般質問を終わります。

○議長（曾根和仁君） 3番城本議員の一般質問を終結します。

休憩します。再開13時50分です。

~~~~~ ○ ~~~~~

12時38分 休憩

13時50分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（曾根和仁君） 再開します。

次に、5番藤社議員の一般質問を許可します。

5番藤社君。

○5番（藤社和美君） では、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

まず、最初の創業支援（初期投資補助金）の創設。

当町にも創業支援というのはあると思うんですが、それについてお伺いします。どのようなものがありますでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 観光企画課の関係ですと、那智勝浦町空き店舗等活用事業、こちらは空き店舗を活用して新規に店舗を構えていただく改装費などを補助させていただくものです。また、体験観光事業者スタートアップ支援事業ということで、町内の体験観光事業などを始めていただくときに補助させていただくものになっております。

観光企画課は以上です。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） やっぱり創業支援というのは、県もわかやま地域課題解決型起業支援補助金、これも最大200万円で、対象は県内に移住か居住、あと、この内容的に言うたらデジタル技術を活用し地域の課題解決を目的にする企業となっております。ちょっと分かりにくいんですが、それ以外に特に移住者には手厚い起業補助金などいろいろ用意されています。前説の当町の支援事業なんですけれども、対象は観光業に寄与したものと思えるんですが、その点はどうか。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 空き店舗のところのお話かなとは思いますが、もちろん体験観光事業のほうは、御存じ観光事業ということで。これまで那智勝浦町にとっては重要な産業である観光で、地域課題である空き家というところで両方を解決するような、ある程度絞った形で運用させてきていただいております。空き店舗活用事業については、発足以降、その中でも対象地区を拡大したり、また去年の3月には、空き店舗のみを対象としていたところを空き家全般が対象になるということで、間口のほうを広げてまいりました。

今、議員からの御指摘のとおり、創業については様々な分野が考えられますので、これまでも柔軟に対応してきたつもりですけれども、できるだけ支援を行えるように、今後は地域活性化に資するような全般の事業も対象というふうにして、柔軟に運用できるように変えていきたいなと思っております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） 今、地域活性化の課題にも対応するような補助に発展させていきたいとい

う話もありますけど、今までの補助対象を見ますところ、やっぱりこの観光で生かされているこの町にとって一番大事な産業である観光に寄与した形で補助されてるのかなというのは体感します。

でも、ここに私たちは生活があります。だけど、やっぱりまた人が集まる町にならなければならぬと、それは思うんです。町民の中に、町の補助金は観光に関係のないものはできないと思っている傾向も実際あります。実際、ほいでまた相談に行ったところ、窓口で観光に関係のないことはこの補助金は使えんよって断られたということも聞いておりますので、そういう認識が町内にも私個人もあるんですが、以前、一般質問で子供たちの18歳の危機という話をしたと思うんですけど、高校卒業と同時に進学または就職して戻ってこない、こういうものですね。18歳の全体の9割は進学、就職でここを離れて、そのうちの8割はそのまま都会に残ると、そういうことが18歳の危機らしいんですが、実体験でもここいら辺の感じを見て、戻ってくる人はそれぐらいの割合かなっていうのはうなずける数字です。

この人口流出を止めるためということで大学誘致の話もありました。実際、今も進行中なんですけど、そういう話は心ある方から出ていますし、それを応援している方もあるのも事実です。でも、私自身は、その先がもっと重要やと考えてます。企業や工場などが来てくれる適地というのが少ない当町で、大きい企業または中堅の企業の進出、これはとても期待薄と、現実的な話、思うんです。その中でやはり前回の一般質問でも言わせてもらいましたが、希望の光はロケット関連企業になってきます。受け身の状態のままっていう事例もありますけど、やはりここにあれが進んで雇用が生まれる、創出されることを願うばかりなんです。

つまり肝腎なのは大学ではなく、雇用、つまり仕事です。大学が全国から来て400人、440人やったかな、来てくれたとしても、一時的に人口が増えて、やっぱり生産人口が増えるのでにぎやかにはなるでしょう。経済効果もあると思います。ただ、やはり卒業して全国にまた散らばっていく、ここに雇用がないと、那智勝浦町が大好きという一部の人たちを除いては、たとえばこの勝浦の子供たちでも仕事を求めてよそへ行くということになると思います。

だから、その中でもやはり、Iターン、Uターン、Jターン、ここが好きで、ここで起業したいと思ってくれる方が、何か実感でぽつぽつ現れてきているのかなというのを感じます。町内で新しい若い方の動きっていうのがありましてね。もちろん今は観光関連が多いです。それは確かなんですけども、少し話がそれましたけど、企業支援が先ほどの観光企画以外の例えば当地で農業を始めたい、漁業を始めたい、林業を始めたいと思った方への支援というのはどういったものがありますでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 農林水産関係でございます。

まず、1つ目としまして農業関係ですが、県事業にはなりますが、就農準備資金という制度がございます。こちらについては、次世代を担う農業者となることを目標に就農するための研修期間等における研修を受ける者に対しての助成制度となっております。

もう一つは町事業でございますが、今年予算計上もさせていただいております経営開始資金

の制度でございます。現在1名、対象がございます。

水産関係については、県事業になりますが、漁業担い手育成支援事業というところがございます。こちらについても漁業への新規就業を促進するため、漁協等が実施する漁業研修制度においての支援事業でございます。対象は宇久井漁協が対象となっております。現在、今のところ町内には一人もございません。

あと、林業関係でございます。こちらに対しましては支援制度、今のところございません。当課としましては、令和7年度で先進地事例なども参考にしながら、森林環境譲与税を活用し、制度化できればなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） 林業に関しては、言いたくないですけど、財源があるというか、使えるお金があるので、大体大きな企業とかになるとは思うんですけど、個人で林業を始めたいという方の応援も兼ねて、そういう資金を有効に使うというのはとてもいいことやと思います。先進事例なんかも含めて考えていただければと思います。

農業、水産業というか漁業、林業、それぞれはあるのですが、なかなか定着するっていうのはないですね。やっぱり資金として、漁業をするにも、農業するにも、船を買ったり、農機を買ったり、かなりたくさんのお金が要るということで、最低生活に困らない12万5,000円ですか、3年間頂けるといっても、なかなか自分の所得を上げるっていうところまでいかないのが現状、それで食べていけないというのが現状かなと思います。ただ、商業ベースにおいては、今全国で話題になってる事業継承とか、事業応援資金とかというのがどんどん出てきております。

私らのところでも、大きいところに比べて小さなところはどんどん潰れていく傾向にあります。その傾向は続くとは思うんですが、でも今ある生活の中で不自由になったことはありませんか。私なんかは犬を飼ってますので、例えば犬のカットの店がなくなった。地域の理髪店、今までたくさんあったんですけど、高齢化で閉めざるを得ない。じゃあ、皆さん、どこへ行くんですか。車へ乗っていけるとこなんでしょうかね。そういう高齢化、事業を続けられないっていうことで閉まる店が増えた。そんなすごい感じます。趣味のよいなと思う雑貨屋さんとか、お弁当屋さん結構皆さん取りがちですね。今は高齢者の方も1人分ということで、お総菜、お弁当を求められる方が多いです。そういうネットで買物をする方が実際多いんですけど、この高齢化率44%を迎える当町では、やはりネットで解決できない、ネットで販売できないものもあると思うんです。前段の事業継承でも、やはり高齢化で亡くなっていく方も多いですし、前、和歌山テレビで特番で地域の事業継承の話も出て、実際、太地町の方とかも出て、どうぞ継いでくださいっていうようなお話もされました。

当地でぽつぽつと動き出してきている実行力のある方たち、また大好きなふるさとに帰ってきて、何かしたいなって考える方たち、絶対いると思うんですよ。そういう方たちの、今ある当地のこの2つの起業支援だけでは収まらないと思うんですよ、雇用の創出のためにね。今、

県下でも、ネーミング的には違いますけど、皆さんの創業を応援します補助金、起業・創業支援事業補助金といった名目で進み出しています。今の時代、パソコン1台で事務所を借りて商売ができるっていう可能性もあるわけなんです。

私、ちょっとネット検索で申し訳ないんですけど、橋本で50万円、広川町で500万円、湯浅町で100万円、田辺で50万円、かつらぎ町で550万円、御坊で30万円、有田市で50万円、太地町で5万円、九度山で50万円、紀美野町で70万円、有田川町も50万円、新宮市20万円、使える内容とか目的とかそれぞれあって、金額も条件ももちろんそれぞれ違うんですけども、やはり事業を起こしたい方々に用意するものが出てきております。その中には、もちろん当町のような空き店舗活用に似たものもあるんですが、広川町なんかは別枠で農業にも独自の100万円の支援も行っていると書いてありました。内容は様々ですけど、通告の後に調べていただけたものはありますでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 今議員から御紹介していただいたような県内の補助金については調べさせていただいて、それぞれ特徴を持ちながら、事業も若干違うんですけども、そこら辺のところは調べさせてもらいました。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） 先進事例っていうたらおかしいんですけど、こっだけ県下でもいろいろ用意しているものが出てきてある中で、やはり観光に特化した、さっきは地域課題のことも言うてくれました、枠を広げますっていうことを言うてくれましたが、私の感覚では200万円というのは、飲食、厨房機器とか内装の改造とか、そういう飲食関係にはそれぐらいの補助は最低でも、もっともっと要ってくると思うんですけど、何か50万円というか、小さい金額でもいいですから、少し人数を広げるような、そんなこともして、今から何かやりたいっていうことを思っている方に応援するような補助金というか支援制度が、この当町にも若い方に頑張って、今から何かしようという方に頑張ってもらうために必要じゃないかなっていう、今日は一般質問をさせてもらってます。

企業誘致が一番効果なもの分かっています。ただ、ここでやはり自分で何か仕事をつくり出したっていう方も実際あるので、その方たち相手に商工会とか銀行とか、最近起業セミナーとか創業セミナー、事業継承セミナー、どんどんやってますね。実際、人数も集めていると聞きます。今ある空き店舗活用補助金や体験観光事業者スタートアップ支援補助金の対象外になる方、その人たちの支援、金額が下がってもいいと思うんですけど、地域で何かを始めたいと思っている方々の応援するような支援を始めていただけないかなと思って、この一般質問を選びました。町長、どうでしょうか、そのお考えは。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） いろんな創業があるということで、本当にそれはとてもいいことだと、まずは思います。そこの辺で、今ほかの町村の補助金も紹介いただきましたが、今現在、勝浦のほうで運用しているものを運用を広げつつ、これまでは創業の場合だったら主に利

子補給とか登録免許税の減免とか、そういうような事業も併せて案内はしてきましたけれども、今後、商工会のほうともまた連携しながら、今お話しいただいたような創業の機運とか、そういうところも実際あるかと思えますので、そこの必要については課題整理を行いながら検討してまいりたいと思います。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） 課長はこういう方向性があるよって、多分課長会とか、そんなんで言うてくれやと思うんですけど、やはり進めるか進めないかっていうのは町長やと思いますので、町長のお考え、やはり雇用、地域課題、人口の流出も含めて難しい問題ではあるんですが、ここの部分、提案ということでどうでしょうかということをお聞きしたいので、町長のお話を聞かせてください。

○議長（曾根和仁君） 町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） 先ほど課長が説明したとおりでございますし、空き店舗等のものも事業を限定するのはどうかなってというのは私、観光に特化したようなことってというのは、それはもともと違うんじゃないのっていう話はしてたところです。そういった意味で、いろんな声を聞きながら、それに見合うような支援ができるのであれば、そういうことを考えていきたいというふうに思ってます。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） 本当に町長の言うとおりにやと思います。空き店舗活用事業でさえも観光に特化するものではないとは思いますが、ただ、それも枠も広げていただけるということでもちょっと納得しましたが、やっぱり金額的なもの、今の状態でしたら、今度、枠は増やしていただきましたけれども、もし申込者が多いと、より平等性も考えまして、もっと使いやすい、いろんな方に使ってもらいやすいもの、さっき言いましたように、商業ベースでなくて、この勝浦に住んでいる方が必要な事業に対してもしっかりと応援していただきたいなと思います。よろしくをお願いします。

次に、犬及び猫の避妊・去勢手術の補助制度の創設なんですけど、この問題、つまり地域で飼い主のいない犬、猫をどう減らしていくかという問題です。

私自身は出身が新宮市三輪崎、この那智勝浦町との共通点はといたしますと、どちらも漁師町で野良猫、つまり飼い主のいない猫というのは地域で餌を与える人がいたり、またその人たちに、その猫に対して敵意を持っていない寛大な心というんですか、やっぱり漁師町なんで、昔はネズミ退治に船に乗せたとか、船を守ってくれるものとして大事にされてきたという経緯がありまして、それも昔の話なんですけど、その頃とはまた認識が変わりまして、今はペットも家族の一員として大事に責任を持って最後まで育成するというのが基本やと思います。ただ、昔の名残というか、ペットを物としてしか見ない風潮というのが、まだ古い認識のまま持っていられる方もいるのも確かです。

私自身も犬も猫も全て保護したもので、犬なんか山に捨てられていたものを引き取りました。ネグレクトで引き取ったものもありますし、猫も捨て猫や飼い主が亡くなって引き取ったものです。全て避妊と去勢はしています。しかし、いまだに勝手に増えるという、このどうしようもない種族保存の生命の本能ですね。幸い和歌山市の雑賀崎で問題化しているような野犬の問題は当町ではまだ見られませんが、町内のある箇所では野良猫の繁殖が確認されている、表面化しているところがあると思うんですか、それはどうでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 住民課長太田君。

○住民課長（太田貴郎君） 野良猫の相談につきましては、年に平均して二十数件の相談があります。ただ、今おっしゃってました県の対策の中に地域猫対策っていうのがありまして、その地域猫の認定を受けたところについては避妊して数が増えないようにっていうふうな形の処置を取ってますので、増え続けているところがあるかどうかっていうのは、ちょっと私のほうでは確認は取れておりませんが、そういうふうに地域として見守っている箇所っていうのは、かなりの数があるというふうに認識をしております。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） 隣の海岸になるんですが、かなりすごい繁殖で、私も行ったんですけども、猫がわあって寄ってきて、多分餌をやる人がいらっしゃるんだろうと思うんです。今、少し減ってきました。というのは、保護活動というか、そういう野良猫のことを県のサポーター事業とかと、あと太地町が小さい町ですけど、去勢、避妊の補助を全額補助しております。予算内ということなんですけど、多分そのことなんか問題になってきてやったんだろうと。そういう増えない努力っていうのをやってくれる方々がちょっと出てきて、今は少し落ち着いてきておりますが、でもそこで生き続けられない猫たちなので、まだ世話もしていただいています。県も、だからさっき言うたように、地域猫サポーターをしていただいているんですけど、何か私の近所にも2人、サポーターってなってもらい、私も関わりました。ただ、勝手に餌やる、そこで増えるっていうグループもまだあるのは確かなんです。

サポーターになるには、ちょっと講習を受けたりとか、いろいろ結構面倒くさいことっていうのかな、御近所に告知して回ったりとか、本当に身勝手な言い分やと思うんですけど、責任がかなり伴ってきます、サポーターの方には。そんなこともあって、その制度を使わずに自己満足っていうのかな、無責任でしかないと思うんですけど、おなかすいてるやろ、かわいそうやからっていうので餌をやるんですね。そういうのは私はちょっと理解できないんですけど、野良があって、つかまえてえよとか、そういう依頼とか、さっき20件だってありましたけど、その中でやはり役場のほうにつかまえてとか、籠を貸してくださいとか言うてくる人があるんですね。

○議長（曾根和仁君） 住民課長太田君。

○住民課長（太田貴郎君） すいません、私、先ほどの答弁でちょっと言葉が足らななんですけど、二十数件というのは動物関係の相談という形で、全てが野良猫とか、そういう対策の相談ではございません。その二十数件には、動物の死体処理はまだ入っていないというような現状

でございます。

あと、今おっしゃっていただきました、町内ではないんですが、増え続けているというか、そこに野良を捨てているような海岸というのは、私もそこは認識しております、議員と同じように私も現場を見に行きました。実際、下りると猫が寄ってきて、恐らく多分そういう現状であれば、行った人が餌を与えたりっていうのをしているんだらうなっていうところは確認しております。

本町におきましても、議員おっしゃいましたように、やっぱり無責任に餌をやる方っていうのは一定数いるというふうに思っています。ただ、私もこの猫とかこういう関係の環境の仕事、平成の初めから平成20年代前半、今という形で3回ぐらい関わってきているんですが、意識の高い方が増えてきて、意識の低い方が減ってきているというのは事実です。ただ、議員おっしゃいましたように、やっぱり意識の低い方っていうのは一定数おられるっていうような状況だというふうには認識しております。

また、今、籠の貸出しなんですけど、数年前というか、10年も前じゃないんですが、猫を捕獲するためのおりを本町でも貸出ししておりました。ただ、今も捕獲して殺処分するのではなく、動物において、野良猫においても天寿を全うさせるというふうな県下全体の方針でもありまして、籠の貸出しは行ってません。ですので、籠の貸出しがなくなった頃には、貸してくれやんのっていう問合せが多くあったんですが、今はほとんどそのような問合せはないっていうような状況でございます。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） もちろん籠を貸してくれって言うてくる町民というのは、物すごく猫で困っている方なので、とにかく籠で捕獲して、殺しはできんでも遠くへ捨てに行きたいって思うんですが、これ動物愛護の観点から籠も貸し出せないし、捕獲しても遠くへも捨てに行っても駄目なんだそうです。ですから、やはり地域でしっかり見守ってくれる人たちを創成せんとあかんと思うんです。特に最近よく聞くのは、一人暮らしの高齢者が亡くなった後、犬猫をどうするのか。大体、保健所に連れていったり、引き取ってくれるところを探したりするっていう、世話してくれる人が一生懸命やってくれているんですけども、じゃあ町が何かそのお助けを、手助けを何かできんかなと思う中で、やはり無責任な飼い主、地域で勝手に餌をやる人の防ぐことにはならないんですけど、まずはさっき言うたように増える、繁殖をしないっていうのがもう一番の、繁殖しなかったら減っていくはずなんで、数の論理からいうと。

私は新宮市に住んでいましたので、かなり前から新宮市では実施してまして、最初は1世帯で1匹やったんですけど、今は平成30年に制度改正もあって、1世帯に制限取れました。だから、その代わり年度年度で1匹の申請になったんですけど、これは市民にも喜ばれてまして、サポーターにはなれんでも、うちとこで去勢、避妊に連れていったという住民もたくさんいらっしゃいます。

行政の観点から考えると、1つは、猫、犬の過剰な繁殖っていうのは、生活環境の保全というか、公衆衛生の乱れといいますか、やはりそれは住民サービスに直結するような気がします

し、私これすごく物すごい気になったんですけど、2つ目は、これから予想される南海トラフとか三連動、大震災の発災後ですね、これ東日本大震災のときにも問題化したことなんですが、飼い犬や飼い猫が飼い主と離れ離れになりまして、被災動物となり、過剰繁殖を繰り返して、この地域で衛生環境が悪くなったという事例も報告されております。当地も発生率が高まり、その可能性も想定されますので、平時のうちからしっかり増えないように努力することを町民に啓発とか制度とかをつくって、増えない、そういうときになったときにやはり行政側からも守れる、この衛生環境を守れるような施策というのは要るんじゃないかということで、私今回この一般質問をさせていただいています。

当町には、ほんまに郡内にも珍しいんですが、獣医さんがおられるんです。この制度を使ってしっかり対策できることが、半歩でも一歩でも前へ進むように思うんですが、どうでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 住民課長太田君。

○住民課長（太田貴郎君） まず冒頭、議員おっしゃってました、猫を捕まえて遠くへ捨てに行くっていうのは動物遺棄に当たりますんで、犯罪になりますんで、皆さん御注意いただきたいというふうに思います。

今おっしゃっていただきました、その地震発災後の繁殖、東日本のほうでも、能登でも一定の地域で問題になっているっていうのは存じ上げています。ただ、先ほど申しました意識の高い方、低い方っておられますので、今提案いただいている補助金云々、導入した中でその低い方が利用してくれるのかっていうところは、まだちょっと私自身は疑問に感じるところもありますので、その辺、啓発には努めていく必要はあるかと思うんですけども、その制度設定についてはちょっと今のところ考えておりません。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） 本当にこれさっき言うたように、意識の低い人に幾らいろんなものを用意したって使わんやろうって言われたらそれまでなんですが、ただやはり知らない住民も、県がしていることとか、そういうボランティア団体、お世話している方とかを知らないこともあります。連携を取って、本当にいろんな場面場面で啓発して、もっとこの地域の衛生環境で、やっぱり愛護の精神というのは人間育成にも関わってきますので、よりよい制度を啓発なども十分しまして、人にも動物にも優しい町であることをお願いします。もし、これが煮詰まって、全然足りんということになったら、この制度をもっと活用をお願いしたいということになってきますので、県の今使える制度とかをどんどん啓発して、皆さんに役立ててもらおうようにお願いします。

本当にこの3番目のこども食堂の運営なんですけど、各地でも進んでおりますこども食堂、なぜ那智勝浦町では進まないのでしょうか。

まず、郡内のこども食堂の現状を教えてくださいませんか。

○議長（曾根和仁君） こども未来課長竹原君。

○こども未来課長（竹原大二君） 県内の地域の状況でございます。

和歌山県が公表している県内のこども食堂について見ますと、新宮・東牟婁地域で、新宮市7件、串本町1件、太地町2件の実施がされているというところがございます。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） 新宮市は、この間、市長がもう8件になると言うてましたので、多分8件になると思うんですけど、そうやって進んでいるところはどんどん進んでます。ないのは、この北山村、那智勝浦町、古座川町はないです。県はこども食堂の推進をしています。国もテレビのコマーシャルでどんどん流していますね。むすびえっていうCMです。私も何回も耳に入ってくるんですけど。これはやはり国が推奨しているというのものもあるんですが、社会で必要と捉えていると思うんですが、その理由をどうお考えですか。

○議長（曾根和仁君） こども未来課長竹原君。

○こども未来課長（竹原大二君） こども食堂の必要とされている理由っていうことでございます。

こども食堂の目的でございます。複数あると思うんですけども、以前からの貧困対策を含む子供への食事の提供、そしてまた共稼ぎ等の増加に伴います孤食の解消であったり、食育、そしてそのほか地域の子供と大人がつながる地域の交流の場所というような側面があると認識はしてございます。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） こども未来課の課長の個人の意見でも大丈夫なんですけど、課長自身は、この取組は町内で必要やと思いますか。

○議長（曾根和仁君） こども未来課長竹原君。

○こども未来課長（竹原大二君） その地域のつながりという意味では、そういった取組も必要といたしますか、そういったこともいい取組だとは思っております。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） 私もいろんな本とかネットとか調べまして、こども食堂とは、子供を真ん中に置いた多世代交流、地域の居場所づくり、これが大事やというんですね。こども食堂の支援を通じて誰も取りこぼさない社会、それをつくる。こども食堂というツールを使って、地域コミュニティーの再生が、これが肝腎、それが根幹やというんです。県も強く推進していて、東牟婁振興局に今年度は担当者も置かれました。より地域での活動が活発になるよう、相談体制もできました。県下のこども食堂は110件という数字も出ています。県内は30市町村だと思うんで、単純に1市町村で3件から4件、県も校区に1件っていうのを目標にしているようですが、当町、この1万4,000弱の人口ベースで、まだ進んでないようなところはありますでしょうか。

○議長（曾根和仁君） こども未来課長竹原君。

○こども未来課長（竹原大二君） 県内の市町村の状況でございます。

当町と同じぐらいの規模の1万から大体1万5,000程度のところを見ますと、本町ほかで4町ございます。その町では、こども食堂は設置はされてございます。3つの町で1件ずつ設置されておりまして、1つで3件の食堂の設置をされております。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） ということは、私たちと同じ規模の町でこども食堂を持ってないのは那智勝浦町だけということでしょうか。

○議長（曾根和仁君） こども未来課長竹原君。

○こども未来課長（竹原大二君） 先ほどの規模で言いますと、本町だけということになります。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） じゃあ、当町で進まないのは何ででしょうか、同じぐらいの人が集まって。お金ですか、場所ですか、マンパワーですか。何か思えるところがありますか。

○議長（曾根和仁君） こども未来課長竹原君。

○こども未来課長（竹原大二君） こども食堂の運営につきましては、民間事業者が自主的、自発的に実施されている取組であると認識してございます。県下の状況を見ましても、主に社会福祉法人であったりNPO法人、そういったところで多く取組がされております。こども未来課の窓口でも、これまでも何件か御相談を受けたことはございますが、今のところ、開設までには至ってないというのが現状でございます。

先ほどのなぜ進まないのか、理由というところなんですけども、その辺につきましては、実施する人員の確保であったり、場所であったり、運営のための費用であったりというのは様々あると思っております。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） こども食堂をやりたいって思う方は、こども未来課へ相談しに行ったらいいんですね。

新宮市のこの間のセミナーを聞いてきたら、新宮市は場所とかも一所懸命相談に乗っておりますとおっしゃってましたけど、そういう相談にも乗っていただけるのでしょうか。

○議長（曾根和仁君） こども未来課長竹原君。

○こども未来課長（竹原大二君） 立ち上げられている方からのお考えなどお聞きしまして、施設につきましては、その性質とかいろいろございますので、状況をお聞きしながら十分お話を伺った上で対応を検討してまいりたいと考えております。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） 私自身もちろん、つまり町というか、行政がつくるものではないとは分かっています。やはりあくまでも町民からボランティア団体から湧き上がる活動のはずなんで

す。ただ、こども食堂の資金はどこからといったときに、やっぱり地方自治体や国からの助成金、補助金が主要な資金源になるというのは、これはもうこども食堂を検索すると表記されていることなんです。これはあくまでもネット検索なんであれなんですけど。県はもうしっかり推奨しているんで、こども食堂に対しての補助を用意していると思います。その内容はどうでしょうか。

○議長（曾根和仁君） こども未来課長竹原君。

○こども未来課長（竹原大二君） 和歌山県の補助でございます。

基本的にこども食堂の立ち上げするときの部分に係る補助金でございます。対象となる団体につきましては、子供の支援を目的とするNPO法人その他の団体となっております。1年以上継続してこども食堂を実施する見込みがあることということとか、原則月1回以上、定期的には実施することっていうところが条件としてあります。それで、備品、設備、開設する際に伴う設備、備品の購入に対して、上限40万円というような補助金でございます。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） つまりほぼ初期費用というか、開設するに当たって用意するものに出してもらえる費用ですね。

県下で、運営側のアンケートも行われていまして、その困り事の最大のものは、まず出す食材に係る費用ということで、金額的には大した金額じゃないんです。2万円ぐらいまでっていうのが60%、1万円から2万円ぐらいまであったらいいよっていうのが40%、この2つがほとんど占めているということで、1回の、そこによって違うんですけど、50人分、100人分を作るところはあるんですけども、やはり大体がそれぐらいの低予算で最初用意して、つまり最初の一、二万円、食材を買うお金がまずないよって。もちろん利用料というのは、大体皆さん100円から300円を回収して、子供は無料というのが多いんですけども、でもまず最初に用意せなあかん部分がありますし、集めたものに関しても、もう雑費用に回ることも多いと思うんですよね。やはりそんなときに新宮市の取組を見てみますと、こども食堂推進補助金といいまして、1回1万円の補助がありまして、この食費の高騰などもありまして、来年度には1万5,000円にするっていうことで、よりこども食堂の運営がスムーズに行くような対策も考えられています。場所の選定も先ほども言いましたように、利用を応援し、相談にも乗りますという前向きな相談窓口があるわけなんです。

当町もこども未来課でそれはできますよということなんで、思いがあっても、大事なのはやはり継続です。やはり継続していくためには、一部の人の持ち出しや資金の調達も、寄附行為ですね、そういう負担がかかるようなことがあっては継続は難しいです。それでなくても、やはり先ほどの困り事アンケートの続きなんですけど、この運営費の確保、スタッフの負担と確保、地域との連携、食中毒のリスク、会場の確保、さっき貧困のことにも課長言ってくれましたが、その一番助けたい、来てほしい家庭の子供や親が来ないっていう、地域間の問題もあります。これどれも全て大きな課題だからこそ、一つ一つ解決せなんだら、やはり続けて

いくことの難しさは生まれます。こどもまんなかの地域コミュニティの復活っていうのは、当町において地域力、防災力の向上のためにもすごい期待したいことなんです。町が後援をしまして、しっかりこれから始まるかもしれない取組を応援していただきたいのですが、町長どうでしょうか、そちらのお考え。

○議長（曾根和仁君） 町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） 私、こども食堂にかかわらず、多世代間の交流をどんどん進めていって、この地域の活性化につなげていきたいということで、今はハード整備、体育文化会館を中心にさせてもらってます。

こども食堂については、すごく困っているっていう話を私自身はあまり聞いてなくて、知らないだけかもしれませんが、今後どうしていくかっていう前に、なかなかこども食堂をしようっていうような方が今いらっしゃらない中で、どういうふうな支援をしていいかっていうのは実際のところ分かりません。始めて、いろんな困り事が出てくると思いますので、始めるに当たって、もう今、こども未来課の課長も申し上げたように、相談に乗らせていただき、それはもう間違いのないことなんですけど、今後どうしていくというのは、まだ全く見えていない中でなかなか申し上げるのは難しいなというふうに思ってます。

やっぱり子供は大事に育てていきたい、そういう町にするためにも多世代間の交流もどんどん進めていかなければいけないし、様々な子供支援みたいなことも十分考えていかなければいけないと思います。その中で、声があればこども食堂なんか、民間の方々の声が上がるのであれば、当然支援すべきかなというふうに思ってます。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社君。

○5番（藤社和美君） ここで町長が町を挙げて支援するのは必要やっておっしゃっていただいたので、やはり今まで相談したいという方が先ほども何人かも現れて、立ち消えになっていく理由というのは、なかなかそこから話が膨らまなかったり、進まなかったりすることが原因やと思いますので、本当にこども食堂っていう名前ですけど、多世代間の交流やったり、地域力やったり、そちらの発展性を私は自身が期待するんですよ。ですから、やっぱりそういうツールも使いながら、それをまた町も応援するという形をしっかりとつくっていただいて、もうここへ来たなら相談に乗ってくれるでっていうようなところも用意してもらわんと、私自身も何人かと話したりしたけど、社協は行く、役場は行く、どこにも話がまとまらない、ほらくられた状態で、じゃあ、もうちょっとええかみみたいな感じの話になるような、今までがそういうことが耳に入ってきてましたので、実際、やっていただける方には支援体制というか、応援体制を持っていただくっていうことも、やはりこの町では必要かなと思ってるので、しっかりお願いします。

以上、5番、一般質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（曾根和仁君） 5番藤社議員の一般質問を終結します。

休憩します。再開15時ちょうどです。

~~~~~ ○ ~~~~~

14時43分 休憩

14時59分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（曾根和仁君） 再開します。

次に、9番松本議員の一般質問を許可します。

9番松本君。

○9番（松本和彦君） 通告に従いまして質問をさせていただきます。

1つ目の質問で、子育て支援に関することとしまして、夏休みとか長期休暇、休業のあるときの給食の提供と学校施設の開放についてということで、前回に引き続き質問させていただきます。

それで、十分御検討もいただいているかと思うんですが、この事業をもしやるとなったときに、県の給食費の補助金の申請ができるかどうかとか、また学校施設の開放に当たって、現場の先生方の何かもし意見があるとか、何か前回から引き続きで進捗があれば教えてください。

○議長（曾根和仁君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） 夏休み等の長期休校中の給食提供及び学校施設の開放についての御質問でございます。

前回御説明させていただきました中で、まず夏休み等の長期休校中の中での給食提供というところで、先進事例の中で学童保育に関する給食提供というのがございました。本町でも就労等により保護者の方が日中いない家庭の児童の受皿としまして学童保育といった制度がございますので、そういったところで、まず検討を進めておるところでございます。

学校施設の活用等に関しましても、前回もお話しさせていただきましたけども、学校長等にも意見等をお伺いしています。やはり学校長等の中で心配されるのは、安全管理面とその責任の所在です。そういったところの整理、それからあとは空き教室、そういったところの問題が課題として挙げられております。

それで、あと県の給食無償化の補助金との関係でございますけども、和歌山県公立学校給食費無償化事業補助金交付要綱、こちらのほうでは補助対象としまして、その中で、まず全ての児童を対象として提供する体制、これが前提となっております。ですので、学童に限らず、学校給食として不特定多数の人に提供するっていうのは対象外と。もう一つの要件としまして、一部または全ての児童・生徒の保護者等において学校給食費の負担が生じる場合というところで、基本的には各自治体が無償でやっているものに対して補助する制度というふうになってますので、そういったところが要件になるかと思えます。

現在の進捗については以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

いったところも踏まえまして、基本的には学校、教育ですね、その支障が出ないというのがまず基本になりますので、その辺のところを話し合いはしたいと思います。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 1番目の質問として、子育て支援というところで、やっぱり一番気にしているのは、夏の本当に命の危険のある暑さ対策やと思っています。それで、今現在はそういう仕組みがないということなんですけども、町としてそういった取組に一步踏み込んでやっていただけないかなと思うんですが、学校給食をはじめ、学校施設の開放とかの点について、町長、もしお考えがあれば、お聞かせいただければと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 教育長岡田君。

○教育長（岡田秀洋君） 私のほうからお答えさせていただきます。

まず、御質問で次長も申し上げましたけども、安全管理という点が一番課題になってくると思います。議員御指摘のように、暑さの対策のために学校に来る。その学校の中での危機管理をどうしていくかということ、まず構造設計していかなければいけないのかなど。ふだんの稼業日の授業等とかと違いますので、そういう中で私自身が経験した中では、やはり危機管理の中で2点、気をつけました。

1点目は、様々な危機の予防っていいですか、事前予防であったりとか、予知であったりとか、予測っていう、そういうところをまず非常に考えました。それから2点目は、実際に危機が起こったときにどうするか。その緊急時の安全確保だとか、被害を最小限に抑止していく、止めていく対応であったりとか、そういう点において、まずこうした安全管理の視点での取組、それから運用面の確保していくということを求められていると思いますので、その点についてまずしっかりとした構造設計をした上でいかないと、ただ単に子供を預かるということの、やっぱり命を預かるということの大切さがありますので、それでまた協議をしながら、一緒にまた考えて、いい方法がないかどうか、考えていけたらなというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 様々な課題があると思うんですけども、本当に子は宝やとは思いますが、子供たちの今後の成長ですね、それを見守っていく上で前向きに御検討を今後もしただければとお願いして、1つ目の質問を終わらせていただきます。

それで、2つ目の質問の広域医療圏に関することなんですけども、こちらにつきましては先般の委員会でも御説明いただきましたし、動向としまして広域医療圏とか新宮保健所主催とか、和歌山テレビの主催のシンポジウム等が最近ありましたし、住民の皆さんの関心も高まってきていると思いますので、何か変わったこととか進捗があれば、周知が遅れることないようにだけお願いして、2つ目の質問は割愛させていただきます。

それで、3つ目の質問ですが、物価高騰・米不足など、住民生活支援に関することとしまし

て質問させていただきます。

こちらについては、恐らく国の物価高騰対策の交付金とかの予定もあるかと思うんですが、町単独で何か事業をしていただきたいなというふうな意味で質問させていただきます。

質問させていただくに当たって、何かにつけて財源というのは必要かと思います。それで、令和3年から5年で町の積立金の状況としましたら、令和6年3月度で58億7,000万円ほどあって、あらかたぱっと60億円ぐらいあるんですけども、これはおべんちゃらを言うんじゃないんですけども、健全な財政運営をしていただいた結果やと思うんですが、来年度の令和7年の予算として109億の事業でやっていただいているんですが、まず質問の中身の前に、この109億円の予算の中で、何か住民の皆さんに還付というか、喜んでもらえるよみみたいな内容の部分っていうのが、ちょっと僕分からなかったんで、どこか福祉的な意味なんか、何かあれば、あるようでしたら教えてください。なかったら構いません。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 予算審議の際にいろいろ御説明させていただいたと思いますが、直接町民の方ということではないんですけども、例えば体育文化会館の枯れ山水のところの整備であったり、そういった町民の方がお使いいただけるような、そういった施設整備等の予算をさせていただいております。また、水道事業会計におきましても、今回初めて繰り出しをすることによりまして、町民の方の御負担がこれ以上増えないような、そういった施策も取り組んでいるところでございます。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） その中で、予算の中でなんですけども、全体が109億円としまして、勝手な言い分なんですけども、今住民が1万3,000として、1人5,000円の商品券を対応していただいたら6,500万円やと思います。それで、これらを配布するに当たって事務経費が3,000万円か4,000万円要ったとして、あらかた1億円としまして、109億円の予算で1億円やったら1%も要らんとするんですよ、勝手な言い分ですけども。この1%の思いやりのものを住民の皆さんに実施していただきたいなとも思うんですが、何せ予算もついてないことですし、今後、国の何かがあるときに、もしついでで乗つけられるようなことがあれば御検討いただけないかなという質問です。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 物価高騰に向けた町民の生活支援対策ということで、先ほど10番議員からの質問でもございましたけども、現在、各役場の担当課におきまして、どのような事業提案がより効果的であるか、有効であるかということをごそれぞれ個別に提案していただいて、その中で最も町民の方に有効な事業が実施できるように検討を行っているところでございます。

その内容につきましては、まだこれからになるんですけども、国費、補助金を活用してということになるかと思いますが、その規模によっては国費も限度額がございますので、それを超える場合、単独事業費も入ってこようかと思いますが、そういった規模も含めての検討を行っているということで御理解いただきたいと思います。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 先ほど少し積立金の状況のことに触れさせていただいたんですけども、資料だけを見ても令和3年から5年の間に増額として15億1,000万円ぐらい増額してます。これ住民1万3,000としたら11万6,000円ぐらいになるんですけども、住民の中には3年間で貯金を一つもできない人もいますかと思えます。住民生活が厳しい中なので、できることならば住民生活支援のほうも前向きに御検討いただきたいなということを要望して、3つ目の質問を終わらせていただきます。

4つ目の質問です。小規模事業者経営改善資金利子補給、俗に言う利子補給制度なんですけども、これに関することとしまして質問させていただきます。

利子補給制度というのは、当町でも日本政策金融公庫のマル経融資というのを借りてられるところへの利子補給としてされていると思うんですけども、今現状、令和6年1月から12月で当町で把握されている実績とかありましたら、教えてください。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 小規模事業者の利子補給の関係で、まず令和6年の借入額ということで、当初借入額立てて計算しまして2億4,580万円という額になっております。その中で利息については164万6,594円ということで、令和6年度の交付額につきましては126万2,697円ということで把握しております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） マル経融資というのが、政策金利ベースで、僕も商工会に勤めてたんですけども、勤めているときで大体1.25%ぐらいやったんですが、近年、景気が回復してきたこともありまして、3月2日までが政策金利が1.75で、3月3日以降は1.95ということで、もう2%が目の前に見えてきています。それで、利子補給制度の要綱を見ますと、現在1%の利子補給と、利子補給をする期間も対象期間の始まりから36か月っていうふうな縛りになっているんですが、こちらにつきまして要綱の制定が平成26年4月1日からされてると思ひまして、10年たってますので、また景気の状態も変わってきて、これらを借りる方が町内の商工業者さんの比較的小規模でやられている事業者さんが利用する制度でもありますので、要綱の見直し等やっていただいて、また時期をなるべく早くしていただきたいんですが、そのあたり何か余地があるかどうかをお願いします。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 議員御指摘のとおり、当該利子補給制度は施行後から本年まで、金利についてあまり大幅に変動することなく低金利時代を過ぎてきました。そのこともあって、制度の内容については変更されていないところです。当町の当該制度の内容につきましては、県内自治体と比較しても、まずは一定の水準であるとは考えております。今回、令和7年度予算においては、これまでの活用の多かったコロナ関係の融資が終了したことから、予算の増額を行っているところです。

一方、今後の課題としまして、先ほど議員からも御指摘がありました日本政策金融公庫の金利が上昇している状況であり、今後も金利の上昇が見込まれる状況であります。つきましては、今後の町内事業者の経営改善の方向などにつきまして、商工会とも情報共有を行いながら、事業者の要望も聞きながら、今後の利子補給の制度内容に係る改善について検討してまいりたいと思います。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 担当は商工会になりますので、運用に当たっては商工会と連絡、また打合せを密にさせていただいて、町内小規模事業者さんの借入状況の改善、経営状況の改善に寄与するようにお願いいたします。

それで、4番目の質問を終わらせていただきまして、5番目の質問としまして、町の公募（文化・教育・事業等）の在り方について質問させていただきます。

午前中から各議員の御質問もありましたので、大学と道の駅のことについて質問をさせていただきたいと思います。

まず、公募全般のことについてなんですけども、公募とは、町としてどういった基準でやられるものかっていうのを、ざっくりで申し訳ないなんですけども、御説明いただけるようやっただらお願いします。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 一般的に自治体の発注形態ということでございますけども、何種類かございます。入札であったり、今おっしゃられました公募型プロポーザル、中にはクリーンセンターなどで実施しました総合評価落札方式などでございます。どのような発注形態を採用していくかは、発注する事業形態や、またその事業期間などによって、よりよいと考えられる方法を選択していくことになろうかと考えております。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） ありがとうございます。

それで、大学の件なんですけども、町長の御意向としまして、来てもらうのは大賛成やよというふうな御意見もあったかと認識してますが、大学の設立団体さんのほうから、町のグリーンピアを貸してほしいよってという要望に対して、公募が前提とか、その他財産の管理の条例による制約があるとかっていうところは理解できたんですが、去年の6月の議会のとときに僕も質問を少しさせていただいて、そのときに大学やから認可ありきやよみたいなお話があったんですが、それは認可を取ってこんでも、条件、近隣団体の同意とかっていうところがあれば出せるってということですか。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 大学を実施する上では、文科省の認可が必要になろうかと思っておりますけども、ただ、当町に対する要望としては、その土地の貸与っていうことでしたので、それについては認可を取得するということは要件とはしてはございません。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 去年の6月と一緒に、やっぱり僕はちょっとあんまり理解できんですけど。

言いますと、町長は大賛成やけど、今実際は話は進んでないというところで、近隣団体の同意が必要っていうところも大事やと思うんですが、多分来てもらうのは大賛成というのは、みんな大賛成やと思うんですよ。ただ、僕はその大学の設立団体さんが、これも去年言わせてもろうたんですけど、どういった事業計画を出してくるかっていうところが僕は大事やと思ってまして、大学が来て、いざ生徒さんが増えたけど、やっぱり事業計画がちゃんとなっていて、もしくはちゃんとなっていたけど、うまくいかなんで廃校になったよじゃ、子供が不幸になるんで、そのあたりが実際、その近隣の町の方の同意とか団体の同意とかっていうところを条件にするんじゃないかと、やっぱりまずは事業計画やと思うんですよ。そやから、町として、今、向こうから貸してっていう話が多分あって、こっちに今、ボールがある状態なんですかね。違うんですね、はい。

返してて、それでキャッチボールが止まってあるんやったら、町としてどのようになってあるんよっていうて期限を切るとか、何かそういう行動も必要なんかなと思うんですが、そのあたり、ないですか。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） その当該団体からの要望に対する、こちらからの回答をお返ししておりますということは、委員会でも御説明申し上げたとおりでございます。

その後、何回か団体の方が当町に見えられまして、その後の活動状況であったりというお話は聞いてはございます。ただ、具体的に土地の貸与を実際に行うというところまでは、お話が進んでいないということが実情でございます。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） 先ほど議員のほうから、大学は大賛成やっておっしゃられましたけど、私が申し上げたのは、高等教育機関がお越しをいただくというのは大賛成ですと。しかも地元の子供たちだけではなく、全国から、あるいは世界から来てもらえるような高等教育機関、もちろん大学も専門学校もそうですけど、そういったものが大賛成ですと。今の言っている一流大学大賛成ということとはまたちょっと別ですので、それだけはすいませんが、よろしく願います。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 特定の高等教育ではないということにしる、もし今案件として1件、そういうのがあるようでしたら、そこの審議っていうか、前へ進まんっていう状況は、その設立団体さんからアクションがないから、今止まっているよっていう状態で間違いないですか。

○議長（曾根和仁君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 原因に関しては、いろんな関係する団体がございます。その中で、私どもはこちらに見えられた際、その進捗状況の中で、そういった団体との接触状況はどうでしょうかということはお聞きしております、その中で一部まだできていないということをお聞きしておりますので、そういったところが原因で進んでいかないんじゃないのであろうかと推察いたしております。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 事務的には、そういった状況があるのは理解しました。

ただ、僕からのお願いは、やっぱり事業計画の、関係団体の同意っていうのも大事なかも分からんですけども、事業計画をしっかりと吟味していただきたいなど。そのためにも事業計画を出していただく必要というのもあるんじゃないかなというふうに、このお話をちょっと聞いたときから僕もそういうことは言ってるんです、ちょっとその辺はお考えの中に入れていただきたいなと思っています。

大学の話はもうその辺で、ちょっと道の駅のお話に切り替えたいんですけども、今度サウンディング調査とか、公募をされるということで、道の駅の話、今回結構出てきているんですが、これも僕の持論で申し訳ないんですけども、議会に来させてもらってから、道の駅の収支の話で、赤字やから僕はもう閉めてほしいよっていう話と、ほんで何なら僕は那智駅の駅舎が好きなもんで、横に建ってあるのが邪魔でしゃないんですよ。それで壊してほしいよっていう話も何回か、1回か2回はさせてもらってます。

ほんで、今現在、お風呂のタイルが剥がれて、止まっている状態なんですけども、僕やったら、もう道の駅も閉めるし、この機会に。何なら委託、指定管理の人がもし来てくれたんやったら、好きにしてよっていうふうにやると思うんですけども、そのあたりで、来年度の予算がついているんですが、方向性とかでもし決まっているものがあれば教えていただきたいのと、そもそも予算を議決しているんですけども、個人的な気持ちで申し訳ないんですが、収入が2,400万円しかないのに、5,700万円の財源を充てるっていうのは本当は納得ってなかったんですが、そのあたりも含めて、何か御答弁いただけるんやったらお願いします。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） お答えします。

こちら当初予算のほうでも御質問いただいたかなというふうに思っております。やはり収入、支出のバランスも含めて早急に改善するべきものであるということで、それは以前から思いは変わっておりませんし、今後もそういう形で今取り組んでいるところでございます。

現在、先ほども議員のほうからありましたように、方向性としましては、指定管理の導入を含めた管理運営方針の検証、検証というのが前段階、準備段階としましてサウンディング型調査を始めております。今週が現地見学会ということになっておりますので、既に二、三社ほどの予定があるというふうに聞いております。

そして、その現地見学会が終わりましたら、4月に入りまして個別面談、対話、今のところ4月11日を予定しているところでございます。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 道の駅の全体の話として、あそこは収益事業体やと思ってまして、それで赤字があるんで、ずっと赤字赤字って言って申し訳ないんですけども、赤字のそこは切っしまえということで僕はずっと言ってしまっまして大変申し訳ないんですが、僕やったらもう本当に風呂はすぐやめます。直近の4月になったら新年度も始まるんですけども、タイルが剥がれているとかあるんですが、そこは修繕費の予算も上がってないんで、一旦は風呂は4月になってもオープンというか、再開しませんという認識でいいんですかね。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 2月5日に内壁のタイルが落下して以降、今、再開しておりません。こちらについては、本当に残念ながら御利用者の皆様、本当に御不便、御迷惑をおかけしているところでございます。その点につきましては、本当に心苦しく思っているところでございます。

議員のほうからもありましたように、当初予算では修繕料はその分についてはもちろん時期的な問題もありますので上程しておりませんが、それはもとより、以前副町長のほうからも大規模修繕が発生した場合については、やむなく入浴施設を休止するということがあります。現状、4月1日から再開するというところでは、今至ってございません。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 話がこれから進んでいくとは思うんですが、指定管理者がもし決まったり、そういうふうな方向性で行くときに、町のほうから、何かここはこうしてもらわなあかんとか、民間の人の、何かこうやりたいよっていうふうなことの制限があまりないようなんですね。自由な取組ができるように配慮していただいて、なおかつ町からお金が出ないように十分慎重に運営をしていただきたいなとお願いして、5番の質問を終わらせていただきます。

それで6番目です。世界遺産登録の20周年の記念シンポジウムについてお伺いします。

この経験をどのように今後生かしていくのかということについて教えてください。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 今回のシンポジウム、先月されたところなんですけれども、こちらのシンポジウムについては約200人の来場者と130人のオンライン視聴により、町内外の方に参加いただきました。

講師の方々からは貴重なお話をいただき、いろいろな視点から那智の滝の魅力を語っていただいたところです。記念講演の隈研吾様からは、今の時代においても熊野が持つ魅力、那智の滝の魅力が特別なものであることを語っていただきました。

このシンポジウムを契機に、これまでの滝保全事業に加えて、那智の滝の保全の重要性を伝え、たくさんの方々に保全に関わっていただきたく、取組を行ってまいりたいと考えております。まずは、町職員が滝の保全のために必要な現状の把握や問題点について学んでいく必要が

あります。また、地域の方々にも理解をいただくべく、町民参加の源流域保全活動を進めていきたいと思っております。さらには、未来的那智勝浦町を支える子供たちにも、林業教育の中で源流域の植生や保全の大切さを学んでもらいたいと考えております。このほか、林業事業者や森の保全に取り組む企業と連携した取組、教育旅行や企業のCSRとしての林業体験や植樹の機会の提供、取組に賛同いただける方からの寄附や、ふるさと納税で寄附をいただくための事業の造成などに取り組んでまいりたいと思います。

これらの事業を行い、たくさんの方に参画いただくことで、那智の滝源流域の保全と保水力の向上を図り、未来永劫とうとうと流れるその姿を守り、後世へと引き継いでまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 御丁寧な説明、ありがとうございました。

また、これ新しい事業をされたらと認識していますが、前回の質問のときに使ったか分からんのですけども、何か一つの事業するとき、これまでやってた事業の中で、もうこの事業要らんやんっていうふうな事業も、ただ惰性でやっているような事業もあるのかどうかちょっと僕は分かってないんですけども、整理したら出てくると思うんですよ。やっぱり事業が増えていくばっかりやったら、本当はせなあかん事業っていうのがないがしろになる場合もあると思います。

それで、1つだけ僕が気づいたのは、那智湾の花火は別に町民でつくる花火大会みたいな感じでやっているんでいいんですけど、勝浦湾でする花火なんですけど、来年度もあるんですけども、花火を上げるっていうのは、もう今ちょっと小耳に挟むと、こどもの日にもやるし、大みそかにも何かやるみたいな、民間の企業さんがやるみたいな事業になってきてますんで、そこで税金をやっぱり住民の方に使っていただきたいという観点から、役場の行政じゃないとできないこと、福祉施策とか、そういうふうなことにお金を使っていただきたいなど。民間でやれることは、なるべくもう手を出さんようにしてほしいなという思いがあるんですけど、これは答弁はできるのかな。お願いします。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 行政の在り方の提言をいただきまして、ありがとうございます。

まず、勝浦湾の花火につきましては、これについては先日、予算を承認いただいたところでありますので、実施してまいりたいと思っておりますが、議員おっしゃるとおり、効果的にコストとしてもやはり元が取れるような仕組みが必要かなと思います。商店街等でいろんな事業者と連携して相乗効果が上がるような工夫をして、実施のほうは行っていきたいと思っております。

いろんな事業、見直しが必要じゃないかというような御意見もいただきました。

各事業につきましては、その事業の効果なり、そういうものは十分考えていかなあかんなど思っておりますし、コストの部分についても重要なんですけども、ちょっと観光企画課は比較

的それはすごく見ていかなあかんところもありますが、行政の中ではコストをかけてでも行わなければならない事業とかもあろうかと思います。その点においても、効果が最大限上がるように、それぞれの事業での存続についてはしっかりと検証、検討していく必要があると考えております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 今後も那智勝浦町に住んでよかったと言っただけのようなまちづくりにぜひ皆さんに御尽力をいただきたいなどお願いして、私の一般質問は終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（曾根和仁君） 9番松本議員の一般質問を終結します。

お諮りします。

本日の会議はこれで延会したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（曾根和仁君） 異議なしと認め、本日はこれで延会することに決定しました。

延会します。

~~~~~ ○ ~~~~~

15時47分 延会